

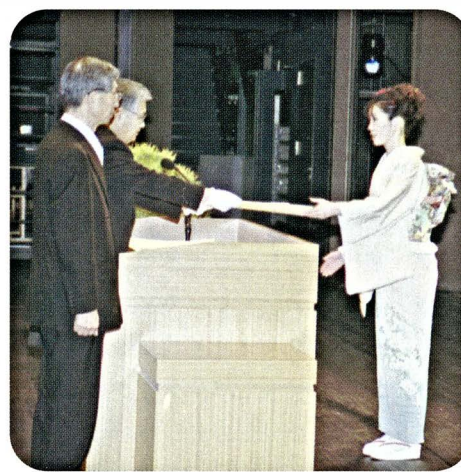
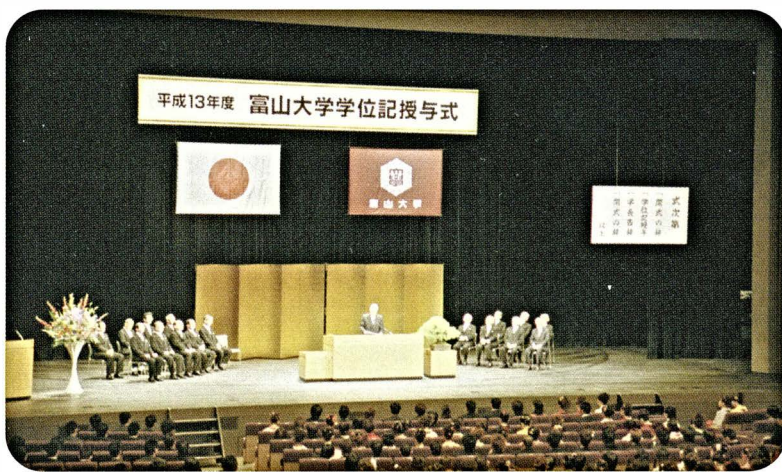


(題字 瀧澤 弘 学長)

第447号
(平成14年 3月号)

3月のトピックス

◇ 25日 平成13年度富山大学学位記授与式を盛大に挙



△人文学部代表・番田幸子さんへの学位記授与

◇ 26日 「富山県内国立大学の再編・統合の推進に関する合意書」に調印



目 次

学 長 告 辞

- ◆ 平成13年度富山大学学位記授与式を盛大に举行 4

- 関 係 法 令 6

学 内 規 則

- ◆ 富山大学学則の改正 7
- ◆ 富山大学教育委員会規則の改正 9
- ◆ 富山大学入学試験管理委員会規則の制定 10
- ◆ 富山大学入学試験実施委員会規則の制定 11
- ◆ 富山大学入学者選抜方法研究委員会規則の制定 12
- ◆ 富山大学入学試験実施委員会内規の制定 13
- ◆ 富山大学総務委員会規則の改正 15
- ◆ 富山大学広報委員会規則の改正 15
- ◆ 富山大学広報委員会専門委員会要項の改正 16
- ◆ 富山大学広報誌編集委員会要項の改正 16
- ◆ 富山大学安全管理委員会規則の改正 17
- ◆ 富山大学就職委員会規則の改正 17
- ◆ 富山大学体育施設委員会規則の改正 18
- ◆ 富山大学自己点検評価規則の改正 18
- ◆ 富山大学自己点検評価委員会専門委員会要項の改正 19
- ◆ 富山大学名誉教授称号授与規則の改正 20
- ◆ 富山大学名誉教授称号授与規則施行細則の改正 20
- ◆ 富山大学センター等連絡会要項の制定 21
- ◆ 富山大学人文学部教授会規則の改正 22
- ◆ 富山大学人文学部規則の改正 22
- ◆ 富山大学教育学部規則の改正 23
- ◆ 富山大学経済学部規則の改正 24
- ◆ 富山大学理学部規則の改正 31
- ◆ 富山大学工学部規則の改正 34
- ◆ 富山大学大学院学則の改正 43
- ◆ 富山大学大学院教育学研究科規則の改正 43
- ◆ 富山大学大学院経済学研究科規則の改正 45
- ◆ 富山大学大学院理工学研究科規則の改正 49
- ◆ 富山大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規則の改正 53

- 諸 会 議 55

学 事

- ◆ 平成14年度入学者選抜個別学力検査（一般選抜（後期日程））を実施 57
- ◆ 大学院工学研究科（博士後期課程）及び同理工学研究科（博士後期課程）
学位記授与式を挙行 57
- ◆ 「富山県内国立大学の再編・統合の推進に関する合意書」に調印 58
- ◆ 再編・統合⑤ 59
- ◆ 平成14年度内地研究員派遣者の決定 61

人 事 異 動 62

学 内 諸 報

- ◆ 留学生センター外国人留学生日本語研修コース（第5期）修了式を開催 64
- ◆ 経済学部でファカルティ・ディベロップメント講演会を開催 64
- ◆ 平成13年度永年勤続者表彰及び退職者を囲む懇談会を開催 65
- ◆ 退官記念最終講義の実施 66
- ◆ 訃報 66
- ◆ 海外渡航者 67
- ◆ 表彰 67

主 要 行 事 68

資 料

- ◆ 平成14年度富山大学入学者選抜試験実施状況総括表 71
- ◆ 平成14年 3 月卒業生数 72
- ◆ 平成13年度大学院研究科修了者一覧 74

学 長 告 辞

平成13年度富山大学学位記授与式を盛大に挙行

— 学士1,457人、修士285人、博士14人計1,756人が晴れの門出を迎える —

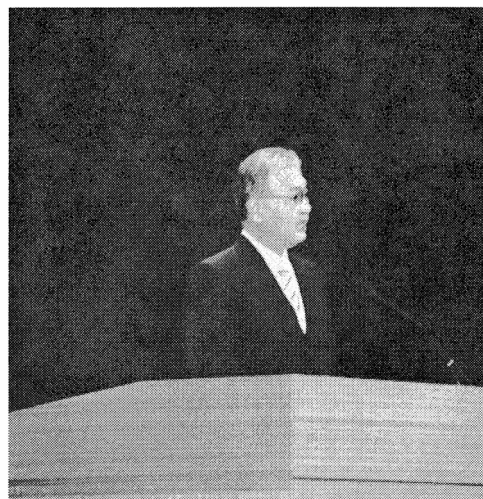
平成13年度富山大学学位記授与式が、3月25日（月）午前11時から富山市芸術文化ホールにおいて挙行され、総数1,756人が晴れの門出を迎えました。

式に先立ち、富山大学フィルハーモニー管弦楽団による「ラデツキー行進曲」（ヨハン・シュトラウス作曲）及び「威風堂々」（エルゲー作曲）の演奏と、富山大学合唱団による「富山大学歌」（菊池靖雄作詞、森川勝彦作曲）及び「夢みたものは」（立原道造作詞、木下牧子作曲）の合唱があり、式場に落ち着いた雰囲気をもたらしました。

式は、関係部局長及び名誉教授7人が列席する中、瀧澤学長から、人文学部代表の番田幸子さんをはじめとして各学部及び大学院の各研究科代表（専攻代表）14人に学位記が授与されました。

続いて、瀧澤学長が「富山大学で学び研究した経験を生かし、常に批判的問題意識を持って、自主的な判断ができるようになってほしい」旨告辞し、静粛なうちに式を終了しました。

なお、式場前には多数の学生が集まり、卒業・修了生に花束を贈ったり、記念写真を撮っていました。



△告示を延べる瀧澤学長

学位記授与式における学長告辞（全文）

学部卒業・大学院修了の皆さん おめでとうございます。本日、富山大学から学位を受けられたのは、学士1,457名、修士285名、博士14名の方々であり、20世紀から21世紀へむけて未曾有の世界的な激動のなかで学生生活を送り、今その成果として学位を授与されたことを、先ずは心からお祝いを申し上げます。

このおめでたい日ではありますが、富山大学として、やはり避けて通れない不祥事にふれないわけにはまいりません。

昨年の6月、皆さんが卒業を前にして、学部では卒業論文や卒業研究に、或いは大学院で学位論文の作成を始めようとした頃、富山大学では、過去に入学試験の合否判定を誤り、本来合格していた16名の学生を不合格にしていた事がわかりました。否さらに、その事が分かって

から、2年以上もそれを隠蔽していたこともわかりました。この隠していた事が分かってから、更に4ヵ月も公表を遅らせるという過ちをも重ねてしまいました。青春を傷つけられた16名の方々の心情は察するに余りあるものがあります。本来ならば、皆さん方と共に今日ここで学位を授与された方もあったであらうでしょう。その方の姿がこの席にないことを思うと、富山大学の学長として言い表す言葉も無いほど痛恨のきわみであります。

また、このため皆さん自身も富山大学の学生・院生として世間で肩身の狭い思いをし、或いは、就職活動で不利になるのではないかと、戸惑いがあったのではないかと、非常に申し訳なく、改めてお詫びを申し上げます。

皆さんは、大学での勉学や研究を通して、学問や科学技術の歴史の中で、つまずきや失敗の際に、それを深く受け止めて、如何にそこから新しいものを作りだすかを

考える事が、学問や科学技術の進歩・発展に寄与してきた事を学んだ筈です。皆さん方も、この残念な大学の不祥事を深く受け止めて、もって『他山の石』としていただきたいと思う次第であります。

いま、富山大学では、社会的な信頼の回復に向けて全力をつくしております。教職員が一体となって研究や教育に、また社会的貢献の面で努力しております。皆さんは富山大学の同窓生として誇り高く胸をはって、存分に社会で活躍してください。

また、今日の卒業に際して皆さん方に気掛かりになっていることの一つとして、富山県内の国立3大学の再編統合問題があると思います。いま私たちは、3つの大学を単に寄せ集めるのではなく、3つの大学が統合することによって、より研究の能力を高め、学生の指導を充実させ、社会への貢献が出来る大学になる方向で検討しております。富山大学は総合大学として3大学の中で、もっとも長い伝統と多くの業績をあげ、数多くの有能な学生を世に送り出して来た歴史を持っております。一方、他の2大学は、いずれも優秀な大学であります。それぞれ設置の目的も研究分野も異なっています。大学の統合は一般社会における会社の合併とは本質的に違っていません。大学の統合は、それぞれの特質を生かし協力によって、より研究機能を高め、未来に向けて開かれた大学にならなければ、統合の意味はありません。そのために、いま、私たちは様々な模索を続けておりますが、決して皆さんの愛する母校となる富山大学が空中分解して無くなってしまふ事はありません。私自身も富山大学の卒業生であり、皆さんの同窓生です。また誰よりも富山大学

を愛していると自負している者の一人です。現在まだ3大学の統合の方向は決まっておりませんが、やがてこの私たちの富山大学の良き伝統を継承発展させた素晴らしい大学になることを期待していただきます。

さて皆さんは、将来、社会で指導的立場に立つ者として、大学で学び研究したことの意味を今一度振り返って見てください。およそ学ぶと言う事の根底には、その専門分野のいかににかかわらず、人間の価値観や生き方の多様性を知り、理性に支えられた社会的使命感を持つことがなければなりません。この理念の欠如した、単なる学問的知識や技術の習得は、環境問題や社会の歪みに対する総合的な判断能力を失わせる結果に至ります。

皆さんは将来とも、富山大学で学び研究した経験を生かして、社会生活の中でも、上司の一言一句に一喜一憂することなく、付和雷同することなく、常に批判的問題意識を持ち、自主的な判断が出来るようになってください。

また皆さんが、やがて指導的地位について、後輩を導く立場になった時も、どうかこの事を忘れないようにしていただきたい。

批判的問題意識の欠如した学問、時流に乗った知識や技術は、社会や科学技術の急激な変化によって瞬時に無用のものと成りかねない事を意識して、流動する社会や科学技術に対して、問題解決の力を養ってください。

これをもって、新しい生活へ旅立つ皆さんへの私からはなむけの言葉と致します。

平成14年3月25日

富山大学長 瀧澤 弘

関 係 法 令

(政 令)

- 学校教育法の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整理に関する制令(67)(平成14.3.27官報第3328号)
- 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令(77)(平成14.3.29官報号外第63号)
- 国家公務員倫理規程の一部を改正する政令(79)(同)
- 公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律施行令の一部を改正する政令(82)(同)
- 公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律施行令の一部を改正する政令の一部を改正する政令(83)(同)
- 公立高等学校の設置、適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律施行令の一部を改正する政令の一部を改正する政令(84)(同)
- 義務教育費国庫負担法第2条ただし書きの規定に基づき教職員の給与及び報酬等に要する経費等の国庫負担額の最高限度を定める政令の一部を改正する政令(85)(同)

(省 令)

- 保健婦助産婦看護婦法の一部を改正する法律の施行に伴う文部科学省関係省令の整理に関する省令(文部科学3)(平成14.3.1官報第3311号)
- 国立大学の学科及び課程に関する省令(同5)(平成14.3.25官報号外第57号)
- 大学評価・学位授与機構組織運営規則の一部を改正する省令(同6)(平成14.3.26官報第3327号)
- 児童手当法施行規則及び児童手当事務費交付金の額の算定に関する奨励の一部を改正する省令(厚生労働34)(平成14.3.26官報号外第58号)
- 学校教育法の一部を改正する法律の施行に伴う関係省令の整理に関する省令(文部科学7)(平成14.3.27官報第3328号)
- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(同8)(平成14.3.28官報号外第62号)
- 大学設置基準の一部を改正する省令(同9)(同)
- 大学設置基準の一部を改正する省令(同10)(同)
- 短期大学設置基準の一部を改正する省令(同11)(同)
- 国家公務員共済組合法施行規則及び厚生年金保険法等

の一部を改正する法律等の施行に伴う存続組合及び指定基金に係る特例業務等に関する省令の一部を改正する省令(財務18)(平成14.3.29官報号外第64号)

- 学校保健法施行規則の一部を改正する省令(文部科学12)(同)
- 小学校設置基準(同14)(同)
- 中学校設置基準(同15)(同)
- 高等学校設置基準の一部を改正する省令(同16)(同)
- 幼稚園設置基準の一部を改正する省令(同17)(同)

(規 則)

- 人事院規則8-18(採用試験)の一部を改正する人事院規則(人事院8-18-16)(平成14.3.1官報号外第36号)
- 人事院規則9-2(俸給表の適用範囲)の一部を改正する人事院規則(同9-2-40)(同)
- 人事院規則9-6(俸給表の調整額)の一部を改正する人事院規則(同9-6-44)(同)
- 人事院規則9-8(初任給、昇格、昇給等の基準)の一部を改正する人事院規則(同9-8-45)(同)
- 人事院規則9-17(俸給の特別調整額)の一部を改正する人事院規則(同9-17-85)(同)
- 人事院規則9-30(特殊勤務手当)の一部を改正する人事院規則(同9-30-44)(同)
- 人事院規則9-49(調整手当)の一部を改正する人事院規則(同9-49-21)(同)
- 人事院規則9-55(特勤勤務手当等)の一部を改正する人事院規則(同9-55-59)(同)
- 人事院規則10-4(職員の保健及び安全保持)の一部を改正する人事院規則(同10-4-11)(同)
- 人事院規則10-7(女子職員及び年少職員の健康、安全及び福祉)の一部を改正する人事院規則(同10-7-5)(同)
- 人事院規則15-14(職員の勤務時間、休日及び休暇)の一部を改正する人事院規則(同15-14-10)(同)
- 人事院規則16-4(補償及び福祉事業の実施)の一部を改正する人事院規則(同16-4-21)(同)
- 人事院規則15-14(職員の勤務時間、休日及び休暇)の一部を改正する人事院規則(同15-14-11)(平成14.3.25官報第3326号)

○人事院規則17-0（管理職員の範囲）の一部を改正する人事院規則（同17-0-65）（同）

○人事院規則9-17（俸給の特別調整額）の一部を改正する人事院規則（同9-17-86）（平成14.3.27官報第3328号）

（告 示）

○平成14年度科学研究費補助金（特定奨励費）における交付申請書の提出期限等を定める件（文部科学30）（平成14.3.1官報第3311号）

○大学の設置等の認可申請書その他の書類の様式及び提出部数の一部を改正する件（文部科学37）（平成14.3.19官報第3323号）

○無線従事者国家試験の一部を免除する学校等を認定した件を変更した件（総務153）（平成14.3.22官報第3325号）

○遺伝子治療臨床研究に関する指針（文部科学・厚生労働1）（平成14.3.27官報号外第60号）

○学校法人の寄附行為及び寄附行為変更の認可に関する審査基準の一部を改正する件（文部科学55）（平成14.3.28官報号外第62号）

○公立学校の学校医，学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償の基準を定める政令の規定に基づき，遺族補償年金等の額に乗ずる率を定める件（文部科学59）（平成14.3.29官報号外第64号）

学 内 規 則

富山大学学則の改正

富山大学学則の改正理由

- 1 国立学校設置法の一部を改正する法律（平成13年法律第76号）に基づき，本学の教員組織としての講座を学則に定めるため，所要事項を改める。
- 2 学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成13年文部科学省令第80号）に基づき，大学入学資格が改正されたことに伴い，所要事項を改める。

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成14年3月15日

富山大学長 瀧澤 弘

富山大学学則の一部を改正する学則

富山大学学則（昭和59年3月12日全部改正）の一部を次のように改正する。

第7条を次のように改める。

（講 座）

第7条 学部若しくは学科又は研究科に，教員組織として講座を置く。

2 講座は，別表第2のとおりとする。

第25条中第7号を第8号とし，第6号の次に次の1号を加える。

(7) 学校教育法第56条第2項の規定により大学に入学した者であって，本学における教育を受けるにふさわしい学力があると本学が認めたもの

第50条第2項中「別表第2」を「別表第3」に改める。

別表第2を別表第3とし，別表第1の次に次の1表を加える。

別表第2（別添のとおり）

附 則

- 1 この学則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成13年文部科学省令第80号）による改正前の学校教育法施行規則第69条第5号の規定により大学に入学した者の大学への入学資格に関する取扱いについては、なお従前の例による。

別表第2

人文学部

人文学科

- △人間基礎論
- △歴史文化
- △行動文化

国際文化学科

- △国際文化論
- △文化環境論

言語文化学科

- △日本東洋言語文化
- △英米言語文化
- △ヨーロッパ言語文化

教育学部

学校教育教員養成課程・生涯教育課程・情報教育課程

- △国語教育
- △社会科教育
- △数学教育
- △理科教育
- △音楽教育
- △美術教育

- △保健体育
- △技術教育
- △家政教育
- △英語教育
- △学校教育

経済学部

経済学科

- △理論経済学
- △比較経済論
- △政策科学
- △応用経済学

経営学科

- △経営学

- △応用経営
- △管理科学
- 経営法学科
- △基礎法
- △民事法
- △企業関係法

理学部

数学科

- △数理解析
- △情報数理

物理学科

- △物性物理学
- △量子物理学

生物学科

- △生体構造学
- △生体制御学

地球科学科

- △地球圏物理学
- △地球ダイナミクス
- △地球進化学

化学科

- △反応物性化学
- △合成有機化学

生物圏環境科学科

- △環境化学計測
- △生物圏機能

工学部

電気電子システム工学科

- △電気システム工学
- △通信制御工学
- △電子物性デバイス工学

知能情報工学科

- △知能システム工学
- △マルチモーダル情報工学
- △メディア情報工学

機械知能システム工学科

- △設計生産工学
- △エネルギー・環境工学
- △機械制御情報工学

物質生命システム工学科

- △材料工学
- △プロセス工学
- △応用化学
- △生命工学

理工学研究科

- 情報システム科学
- 設計生産システム科学
- 物質創成科学
- 材料科学

- エネルギー変換科学
- エネルギー循環科学
- 生命科学
- 地球環境科学

備考 ○印を冠するものは博士講座，△印を冠するものは修士講座である。

富山大学大学教育委員会規則の改正

富山大学大学教育委員会規則の改正理由

入学者の選抜に関して実施組織の見直しを行うことに伴い、大学教育委員会の審議事項を見直し、所要事項を改める。

富山大学大学教育委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長

瀧 澤

弘

富山大学大学教育委員会規則の一部を改正する規則

富山大学大学教育委員会規則（平成12年 3 月31日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 3 号を次のように改める。

(3) 入学者の受入方針に関すること。

附 則

この規則は、平成14年 4 月 1 日から施行する。

富山大学大学入学試験管理委員会規則の制定

富山大学入学試験管理委員会規則の制定理由

入学者選抜の実施組織を見直し、入学者の選抜を適正かつ円滑に行うため、所要事項を定める。

富山大学入学試験管理委員会規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧澤 弘

富山大学入学試験管理委員会規則

(設 置)

第1条 富山大学に入学者の選抜を適正かつ円滑に運営するため、富山大学入学試験管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 入学者選抜の基本方針に関する事項
- (2) 入学者選抜検査及び大学入試センター試験の実施に関する基本的事項
- (3) その他入学者選抜に関する重要事項

(組 織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 評議会から選出された評議員1人
- (5) 学部の入学試験関係委員会の委員長（学部長が委員長である学部にあつては、学部長が指名した入学試験関係委員会の委員）

(任 期)

第4条 前条第5号の委員で学部長が指名した入学試験関係委員会の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。
2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議 事)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ開会できない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(実施本部等)

第7条 委員会に、入学者選抜に係る検査の実施のため、検査実施本部及び各学部検査場本部を置く。

- 2 検査実施本部に本部長を置き、学長をもって充て、各学部検査場本部に本部長を置き、学部長をもって充てる。
- 3 検査実施本部及び各学部検査場本部に関する事項は、当該本部長が別に定める。

第8条 委員会に、大学入試センター試験の実施のため、試験実施本部及び各学部試験場本部を置く。

- 2 試験実施本部に本部長を置き、学長をもって充て、各学部試験場本部に本部長を置き、学部長をもって充てる。
- 3 試験実施本部及び各学部試験場本部に関する事項は、当該本部長が別に定める。

(入学試験実施委員会)

第9条 委員会に、入学者選抜検査及び大学入試センター試験の実施に必要な事項を協議するため、入学試験実施委員会を置く。

- 2 入学試験実施委員会に関する規則は、別に定める。（入学者選抜方法研究委員会）

第10条 委員会に、入学者選抜方法に関し必要な事項を調査研究するため、入学者選抜方法研究委員会を置く。

- 2 入学者選抜方法研究委員会に関する規則は、別に定める。

(庶 務)

第11条 委員会の庶務は、学生部入試課において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 富山大学入学試験実施委員会規則（平成12年3月31日制定）は、廃止する。

富山大学大学入学試験実施委員会規則の制定

富山大学入学試験実施委員会規則の制定理由

入学者選抜の実施組織を見直し、入学者の選抜を適正かつ円滑に行うため、所要事項を定める。

富山大学入学試験実施委員会規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月 15 日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学入学試験実施委員会規則

(趣 旨)

第 1 条 この規則は、富山大学入学試験管理委員会規則第 9 条第 2 項の規定に基づき、富山大学入学試験実施委員会（以下「実施委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 実施委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 入学者選抜検査の実施に関する事。
- (2) 学生募集に関する事。
- (3) 大学入試センター試験の実施に関する事。
- (4) その他入学者選抜の実施に関し必要な事。

(組 織)

第 3 条 実施委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長が指名した副学長
- (2) 富山大学入学試験管理委員会規則第 3 条第 4 号の評議員
- (3) 富山大学入学試験管理委員会規則第 3 条第 5 号の委員
- (4) 学部の入学試験関係委員会の委員 各 1 人
- (5) 保健管理センター所長
- (6) 総合情報処理センター長

(任 期)

第 4 条前条第 4 号の委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 実施委員会に委員長を置き、副学長をもって充てる。

- 2 委員長は、実施委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ

め指名した委員がその職務を代行する。

(議 事)

第 6 条 実施委員会は、委員の 3 分の 2 以上が出席しなければ開会できない。

- 2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(専門委員会)

第 7 条実施委員会に、入学者選抜に関する専門的事項を審議するため、次の各号に定める専門委員会を置く。

- (1) 問題作成専門委員会
- (2) 採点専門委員会
- (3) 入試問題検討専門委員会
- (4) 健康診断専門委員会
- (5) 電算処理検討専門委員会
- (6) 電算処理実施専門委員会

2 各専門委員会に委員長を置き、副学長をもって充てる。

- 3 各専門委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(意見の聴取)

第 8 条 実施委員会及び各専門委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(庶 務)

第 9 条 実施委員会及び専門委員会の庶務は、学生部入試課において処理する。

(雑 則)

第 10 条 この規則に定めるもののほか、実施委員会の運営に関し必要な事項は、実施委員会において定める。

附 則

この規則は、平成14年 4 月 1 日から施行する。

富山大学大学入学者選抜方法研究委員会規則の制定

富山大学入学者選抜方法研究委員会規則の制定理由

入学者選抜の実施組織を見直し、入学者の選抜を適正かつ円滑に行うため、所要事項を定める。

富山大学入学者選抜方法研究委員会規則を次のとおり制定する。

平成14年3月15日

富山大学長 瀧澤 弘

富山大学入学者選抜方法研究委員会規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、富山大学入学試験管理委員会規則第10条第2項の規定に基づき、富山大学入学者選抜方法研究委員会（以下「研究委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 研究委員会は、入学者選抜方法に関し、必要な事項を調査研究する。

(組 織)

第3条 研究委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 富山大学入学試験管理委員会規則第3条第4号の評議員

(2) 学部の入学試験関係委員会の委員 各2人

(任 期)

第4条 前条第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 研究委員会に委員長を置き、第3条第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、研究委員会を招集し、その議長となる。

ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議 事)

第6条 研究委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ開会できない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(専門委員会)

第7条 研究委員会に、専門的事項の調査研究を行うため必要があるときは、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会の委員の任期は、2年とする。

3 専門委員会に委員長を置き、専門委員会の委員の互選による。

4 専門委員会の委員は、研究委員会に出席し、その調査研究の成果を報告するものとする。

5 前各項に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会において定める。

(庶 務)

第8条 研究委員会及び専門委員会の庶務は、学生部入試課において処理する。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

富山大学大学入学試験実施委員会内規の制定

富山大学入学試験実施委員会内規の制定理由

入学者選抜の実施組織を見直し、入学者の選抜を適正かつ円滑に行うため、所要事項を定める。

富山大学入学試験実施委員会内規を次のとおり制定する。

平成14年 3月15日

富山大学事務局長 坂 田 達 夫

富山大学入学試験実施委員会内規

第1節 総則

第1条 この内規は、富山大学入学試験実施委員会規則第7条第3項の規定に基づき、次の各号に掲げる専門委員会の運営に関し必要な事項について定める。

- (1) 問題作成専門委員会
- (2) 採点専門委員会
- (3) 入試問題検討専門委員会
- (4) 健康診断専門委員会
- (5) 電算処理検討専門委員会
- (6) 電算処理実施専門委員会

第2節 問題作成専門委員会

第2条 問題作成専門委員会の所掌事項は、次の各号のとおりとする。

- (1) 教科・科目の問題作成に関すること。
- (2) 教科・科目の問題の採点基準に関すること。
- (3) その他教科・科目の問題作成に関し必要な事項

第3条 一般選抜の入学試験に係る問題作成専門委員会の委員の選出については、次のように行う。

- (1) 各教科・科目ごとに主任委員を置き、前年度の主任委員が入学試験実施委員会委員長（以下「委員長」という。）に推薦し、学長が命ずる。
- (2) 委員は、前号により命じられた主任委員が当該教科・科目の問題作成に必要な委員を委員長に推薦し、学長が命ずる。
- (3) 委員長が必要と認めるときは、当該教科・科目の主任委員の推薦に基づき副主任を置くことができる。
- (4) 主任委員から申出があった場合、委員長は、専ら入試問題の点検を行うための問題検討要員を委員として指名することができる。

2 推薦入学等の特別選抜試験に係る問題作成専門委員会の委員の選出については、各学部で適任者を選出し、

学部長が主任委員及び委員を委員長に推薦し、学長が命ずる。

第4条 主任委員及び委員の任期は、5月1日から当該年度の入試業務が完了するまでの間とする。

第3節 採点専門委員会

第5条 採点専門委員会の所掌事項は、次の各号のとおりとする。

- (1) 教科・科目の答案の採点に関すること。
- (2) 教科・科目の答案の採点結果の評価及び報告に関すること。
- (3) その他教科・科目の答案の採点に関し必要な事項

第6条 採点専門委員会の委員は、問題作成専門委員会委員が兼ねるものとする。

2 主任委員は、採点業務を円滑に実施するため、新たに適任者を委員長に推薦することができる。

3 前項の委員は、学長が命ずる。

第7条 前条第1項の委員の任期は、第4条の規定を準用する。

2 前条第2項の委員の任期は、委員長が適宜定めるものとする。

第8条 各教科・科目の主任委員は、次年度の参考とするため入試問題と採点結果について検討し、その結果を委員長に報告するものとする。

第4節 入試問題検討専門委員会

第9条 入試問題検討専門委員会の所掌事項は、次の各号のとおりとする。

- (1) 入試問題作成方針にかかること。
- (2) 入試問題作成方針の学部間の調整に関すること。
- (3) その他入試問題作成の参考となる事項

第10条 入試問題検討専門委員会の委員は、国語、数学、理科、外国語の関係教員の中から委員長が指名し、学長が命ずる。

第11条 前条の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第5節 健康診断専門委員会

第12条 健康診断専門委員会の所掌事項は次の各号のとおりとする。

- (1) 健康診断審査の基準に関すること。
- (2) 調査書における健康診断の判定に関すること。
- (3) 身体に障害を有する者の事前相談に関すること。
- (4) その他健康診断に関し必要な事項

第13条 健康診断専門委員会は、委員長及び各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 保健管理センター所長
- (2) 学部の入学試験関係委員会の委員 各1人

2 前項第2号の委員は、学部長の推薦に基づき学長が命ずる。

第14条 前条第1項第2号の委員の任期は、1年とする。

第6節 電算処理検討専門委員会

第15条 電算処理検討専門委員会の所掌事項は、次の各号のとおりとする。

- (1) 電算処理仕様書の様式及びその内容の確認・点検に関すること。
- (2) 合否判定資料の様式及び点検に関すること。
- (3) その他電算処理実施専門委員会が円滑に作業するための必要な事項

第16条 電算処理検討専門委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 富山大学入学試験実施委員会規則第3条第4号の委員
- (2) 学部の入学試験関係委員会の委員各1人

2 前項第2号の委員は、学部長の推薦に基づき学長が命ずる。

3 委員長は、必要に応じ電算処理検討専門委員会に総

合情報処理センター長又は総合情報処理センター専任教員の出席を求め指導助言を得るものとする。

第17条 前条第1項第2号の委員の任期は、1年とする。

第7節 電算処理実施専門委員会

第18条 電算処理実施専門委員会の所掌事項は、次の各号のとおりとする。

- (1) 入学者選抜業務のデータ処理システムの作成に関すること。
- (2) 入学者選抜業務のデータ処理に関すること。
- (3) 合否判定資料の作成に関すること。
- (4) その他入学者選抜業務に係るデータ処理に関し必要な事項

第19条 電算処理実施専門委員会は、委員長及び学部の教員各2人以上の委員をもって組織する。

2 前項の委員は、学部長の推薦に基づき学長が命ずる。

3 委員長は、必要に応じ電算処理実施専門委員会に総合情報処理センター専任教員の出席を求め、指導助言を得るものとする。

第20条 前条第1項の委員の任期は、2年とする。

第8節 雑則

第21条 この内規に定めるもののほか、各専門委員会の運営に関し必要な事項は、入学試験実施委員会において定める。

附 則

- 1 この内規は、平成14年4月1日から実施する。
- 2 この内規施行後最初に命じられる第19条第1項の委員のうち半数の委員の任期は、第20条の規定にかかわらず、3年とする。
- 3 富山大学入学試験実施委員会専門委員会委員の任期を定める申合せ（平成5年6月25日制定）は、廃止する。

富山大学総務委員会規則の改正

富山大学総務委員会規則の改正理由

学長補佐体制の効率的な運用を図るため、全学委員会の構成員を見直すことに伴い、所要事項を改める。

富山大学総務委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3月15日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学総務委員会規則の一部を改正する規則

富山大学総務委員会規則（平成12年 3月31日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1号を次のように改める

- (1) 評議会規則第2条第6号に定める教員のうちから学長が指名した評議員（以下「学長が指名した評議員」という。） 1人

第3条第2号を削り、第3号を第2号とし、第4号を第3号とする。

第5条第1項中「副学長」を「学長が指名した評議員」に改める。

附 則

この規則は、平成14年 4月 1日から施行する。

富山大学広報委員会規則の改正

富山大学広報委員会規則の改正理由

学長補佐体制の効率的な運用を図るため、全学委員会の構成員を見直すことに伴い、所要事項を改める。

富山大学広報委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3月15日

富山大学事務局長 坂 田 達 夫

富山大学広報委員会規則の一部を改正する規則

富山大学広報委員会専門委員会要項（平成12年 5月22日制定）の一部を次のように改める。

富山大学広報委員会規則（平成12年 3月31日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1号を次のように改める

- (1) 評議会規則第2条第6号に定める教員のうちから学長が指名した評議員（以下「学長が指名した評議員」という。） 1人

第3条第2号中「2人」を「1人」に改める。

第5条第1項中「副学長」を「学長が指名した評議員」に 改める。

附 則

この規則は、平成14年 4 月 1 日から施行する。

富山大学広報委員会専門委員会要項の改正

富山大学広報委員会専門委員会要項の改正理由

学長補佐体制の効率的な運用を図るため、広報委員会の構成員が見直されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学広報委員会専門委員会要項の一部を改正する要項を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学事務局長 坂 田 達 夫

富山大学広報委員会専門委員会要項の一部を改正する要項

富山大学広報委員会専門委員会要項（平成12年 5 月22日制定）の一部を次のように改める。

第 4 条第 1 項第 1 号中「(第 1 号の委員を除く。)」を削る。

第 5 条第 1 項中「規則第 3 条第 2 号の委員」を「規則第 3 条第 1 号又は第 2 号の委員」に改める。

附 則

この要項は、平成14年 4 月 1 日から実施する。

富山大学広報誌編集委員会要項の改正

富山大学広報誌編集委員会要項の改正理由

学長補佐体制の効率的な運用を図るため、広報委員会の構成員が見直されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学広報誌編集委員会要項の一部を改正する要項を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学事務局長 坂 田 達 夫

富山大学広報誌編集委員会要項の一部を改正する要項

富山大学広報誌編集委員会要項（平成13年 3 月 9 日制定）の一部を次のように改める。

第 2 条第 1 項第 1 号中「(第 1 号の委員を除く。)」を削る。

附 則

この要項は、平成14年 4 月 1 日から実施する。

富山大学安全管理委員会規則の改正

富山大学安全管理委員会規則の改正理由

学長補佐体制の効率的な運用を図るため、広報委員会の構成員が見直されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学安全管理委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学安全管理委員会規則の一部を改正する規則

富山大学安全管理委員会規則（平成12年 3 月31日制定）の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 号及び第 2 号を次のように改める

- (1) 評議会規則第 2 条第 6 号に定める教員のうちから学長が指名した評議員（以下「学長が指名した評議員」という。） 1 人
- (2) 評議員（前号の委員の所属する学部を除く。） 各学部 1 人

第 5 条第 1 項中「副学長」を「学長が指名した評議員」に改める。

附 則

この規則は、平成14年 4 月 1 日から施行する。

富山大学就職委員会規則の改正

富山大学就職委員会規則の改正理由

学長補佐体制の効率的な運用を図るため、広報委員会の構成員が見直されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学就職委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学就職委員会規則の一部を改正する規則

富山大学就職委員会規則（平成12年 3 月31日制定）の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 号を次のように改める

- (1) 評議会規則第 2 条第 6 号に定める教員のうちから学長が指名した評議員（以下「学長が指名した評議員」という。） 1 人

第 3 条第 2 号を削り、第 3 号を第 2 号とし、第 4 号を第 3 号とし、第 5 号を第 4 号とする。

第 5 条第 1 項中「副学長」を「学長が指名した評議員」に改める。

附 則

この規則は、平成14年 4 月 1 日から施行する。

富山大学体育施設委員会規則の改正

富山大学体育施設委員会規則の改正理由

学長補佐体制の効率的な運用を図るため、広報委員会の構成員が見直されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学安全管理委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学体育施設委員会規則の一部を改正する規則

富山大学体育施設委員会規則（昭和61年12月19日制定）の一部を次のように改正する。

第4条第1号を次のように改める

(1) 評議会規則第2条第6号に定める教員のうちから学長が指名した評議員（以下「学長が指名した評議員」という。） 1人

第4条第2号を削り、第3号を第2号とし、第4号から第6号までを1号ずつ繰り上げる。

第6条第1項中「副学長」を「学長が指名した評議員」に改める。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

富山大学自己点検評価規則の改正

富山大学自己点検評価規則の改正理由

富山大学自己点検評価委員会及び専門委員会の組織を見直し、円滑な委員会運営を図るとともに、委員会の所掌事項を見直し、評価体制の整備を図る。

富山大学自己点検評価規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学自己点検評価規則の一部を改正する規則

富山大学自己点検評価規則（平成4年9月11日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第4号を第5号とし、第3号の次に次の1号を加える。

(4) 第三者評価及び外部評価に関すること。

第3条を次のように改める。

(組 織)

第3条 全学委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 附属図書館長
- (2) 評議員 各学部 1 人
学内共同教育研究施設、保健管理センター及び学内共同利用施設の長 3 人
- (4) 教養教育実施機構企画専門委員会委員長
- (5) 学部自己点検評価委員会委員 各 1 人
- (6) 事務局長

附 則

この規則は、平成14年 4 月 1 日から施行する。

富山大学自己点検評価委員会専門委員会要項の改正

富山大学自己点検評価委員会要項の改正理由

富山大学自己点検評価委員会及び専門委員会の組織を見直し、円滑な委員会運営を図るとともに、委員会の所掌事項を見直し、評価体制の整備を図る。

富山大学自己点検評価委員会専門委員会要項の一部を改正する要項を次のとおり制定する。

平成14年 3 月 15 日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学自己点検評価委員会専門委員会要項の一部を改正する要項

富山大学自己点検評価委員会専門委員会要項（平成 4 年 9 月 21 日制定）の一部を次のように改正する。

第 4 条第 1 項を次のように改める。

（組 織）

第 4 条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、第 2 条各号に掲げる専門委員会のいずれかに所属する。

- (1) 規則第 3 条第 2 号の委員
- (2) 規則第 3 条第 3 号の委員
- (3) 規則第 3 条第 4 号の委員
- (4) 学部自己点検評価委員会委員 各 3 人
- (5) 規則第 3 条第 6 号の委員

第 5 条を削る。

第 6 条中「第 4 条第 1 項第 1 号の委員」を「第 4 条第 1 項第 1 号の委員及び同項第 2 号委員のうちから 1 人」に改め、同条を第 5 条とする。

第 7 条を第 6 条とする。

第 8 条中「聞く」を「聴く」に改め、同条を第 7 条とし、第 9 条を第 8 条とする。

附 則

この要項は、平成14年 4 月 1 日から実施する。

富山大学名誉教授称号授与規則の改正

富山大学名誉教授称号授与規則の改正理由

- 1 学校教育法の一部改正（平成13年7月11日付け法律第105号）に伴い、本学の名誉教授称号授与の基準を見直し、所要事項を改める。
- 2 規則等の条文を整備し、字句を改める。

富山大学名誉教授称号授与規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧澤 弘

富山大学名誉教授称号授与規則の一部を改正する規則

富山大学名誉教授称号授与規則（昭和33年4月25日制定）の一部を次のように改正する。

第1条中「多年」及び「及び第108条の2」を削る。

第2条第1号中「20年以上」を「15年以上」に改め、同条第3号を削り、第4号を第3号とし、第5号を第4号とし、第6号を第5号とする。

附則第2項を削る。

附 則

- 1 この規則は、平成14年3月15日から施行し、改正後の規則は、平成14年3月31日以降に退職する者から適用する。
- 2 この規則中「学部長」とあるのは、学内共同教育研究施設にあっては「センター長」と、保健管理センターにあっては「センター所長」と読み替えるものとする。
- 3 この規則中「教授会」とあるのは、学内共同教育研究施設及び保健管理センターにあっては「運営委員会」と読み替えるものとする。

富山大学名誉教授称号授与規則施行細則の改正

富山大学名誉教授称号授与規則施行細則の改正理由

- 1 学校教育法の一部改正（平成13年7月11日付け法律第105号）に伴い、本学の名誉教授称号授与の基準を見直し、所要事項を改める。
- 2 規則等の条文を整備し、字句を改める。

富山大学名誉教授称号授与規則施行細則の一部を改正する細則富山大学名誉教授称号授与規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧澤 弘

富山大学名誉教授称号授与規則施行細則の一部を改正する細則

富山大学名誉教授称号授与規則施行細則（昭和46年2月19日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第1項第2号中「学部長、教養部長」を「副学長、学部長」に、「20年」を「15年」に、「就任」を「在任」に改め、同項第3号中「(包括された旧制諸学校を含む。)」を削り、「及び」を「又は」に、「引続き30年以上」を「20年以上」に、「勤務年数が18年以上の者」を「特に教授会が推薦する者」に改め、同項第4号中「及び」を「又は」に、「通算35年以上」を「25年以上」に、「勤務年数が18年以上の者」を「特に教授会が推薦する者」に改め、「功績が特に顕著であり」を削り、同条第2項第5号中「又は勤務年数が15年以上で、学術上の功績が特に顕著であったと認められる者」を削り、同号の次に次の1号を加える。

(6) 勤務年数が10年以上で、学術上の功績について特に教授会が認めた者
第3条を削る。

附 則

- 1 この細則は、平成14年3月15日から施行し、改正後の細則は、平成14年3月31日以降に退職する者から適用する。
- 2 この細則中「教授会」とあるのは、学内共同教育研究施設及び保健管理センターにあっては「運営委員会」と読み替えるものとする。

富山大学センター等連絡会要項の制定

富山大学センター等連絡会要綱の制定理由

富山大学の学内共同教育研究施設、保健管理センター及び学内共同利用施設に係る諸問題について意見交換を行い円滑な運営を図るため、所要事項を定める。

富山大学センター等連絡会要項を次のとおり制定する。

平成14年3月15日

富山大学事務局長 坂田 達夫

富山大学センター等連絡会要項

(設 置)

第1条 富山大学の学内共同教育研究施設、保健管理センター及び学内共同利用施設に係る諸問題について意見交換を行い円滑な運営を図るため、富山大学センター等連絡会（以下「連絡会」という。）を置く。

(組 織)

第2条 連絡会は、学内共同教育研究施設の長、保健管理センター所長及び学内共同利用施設の長（以下「センター長」という。）をもって組織する。

(議 長)

第3条 連絡会に議長を置き、センター長の互選により選出する。
2 議長は、連絡会を招集する。ただし、議長に事故あるときは、議長があらかじめ指名したセンター長がその職務を代行する。

(運 営)

第4条 連絡会は、センター長の過半数が出席しなければ開会できない。

2 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第5条 連絡会が必要と認めたときは、センター長以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(庶 務)

第6条 連絡会の庶務は、総務部研究協力課において処理する。

(雑 則)

第7条 この要項に定めるもののほか、連絡会の運営に関し必要な事項は、連絡会が定める。

附 則

この要項は、平成14年4月1日から実施する。

富山大学人文学部教授会規則の改正

富山大学人文学部教授会規則の改正理由

富山大学教員選考基準の改正に伴い、教員の人事等を審議する教授会の組織を見直し、所要事項を改める。

富山大学人文学部教授会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学人文学部教授会規則の一部を改正する規則

富山大学人文学部教授会規則（昭和52年 5 月16日制定）の一部を次のように改正する。

第 3 条ただし書を削る。

第 7 条第 1 項ただし書を次のように改める。

ただし、教員の人事及び名誉教授の内申の議事を除き、緊急の必要がある場合は構成員の 2 分の 1 以上の出席をもって、議事を開き議決することができる。

第 7 条第 2 項を次のように改め、同条第 3 項を削る。

- 2 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、教員の人事及び名誉教授の内申に関する議事並びに前項ただし書による教授会の議事は、出席者の 3 分の 2 以上をもって決する。
- 第 8 条を削り、第 9 条を第 8 条とする。

附 則

この規則は、平成14年 4 月 1 日から施行する。

富山大学人文学部規則の改正

富山大学人文学部規則の改正理由

人文学部のカリキュラムを見直し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学人文学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学人文学部規則の一部を改正する規則

富山大学人文学部規則（昭和52年 5 月16日制定）の一部を次のように改正する。

別表 I（第 3 条第 2 項関係）専門科目人文学科の表を次のように改める。
（別添のとおり）

附 則

- 1 この規則は、平成14年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成13年度以前の入学者については、なお従前の例による。

専 門 科 目

人文学科

授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数
人間基礎論入門	4	文書館学Ⅰ	2	芸術文化史	2
古典ギリシア語	4	文書館学Ⅱ	2	コミュニケーションと社会	2
ラテン語中級	4	文書館学Ⅲ	2	美術史	2
哲学概論	4	文書館学実習	3	言語学概論	4
西洋思想史Ⅰ	8	日本史基礎演習	4	音声学	4
西洋思想史Ⅱ	8	東洋史概説	8	言語学実験実習	2
哲学特殊講義	8	東洋史特殊講義	12	言語学演習	16
哲学演習	8	東洋史実習	24	言語学特殊講義	18
哲学講読	8	東洋史実習	2	個別言語論	4
文化基礎論講読	2	東洋史基礎演習	4	心理学概論	4
美学	2	東アジア交流史特殊講義	2	心理学実験Ⅰ	4
論理学	2	西洋史概説	8	心理学実験Ⅱ	4
倫理思想	6	西洋史特殊講義	12	心理学演習	10
宗教思想	4	西洋史実習	28	心理学特殊講義	18
東洋思想史	4	西洋史実習	2	心理学研究法	2
現代と思想	4	西洋史基礎演習	4	社会学概論	4
比較思想	4	史学概論	2	社会学実習	5
人間学特殊講義	6	史学史	2	社会学演習	8
人間学演習	10	東西交流史特殊講義	2	社会学講読	8
人間学講読	8	行動文化入門	4	社会学特殊講義	18
世界史序説	4	行動文化研究法	4	社会調査法	8
日本史概説	8	行動文化特殊講義	6	社会経済史	4
日本史特殊講義	18	文化構造概論	6	法制史	2
日本史演習	24	文化構造実習	4	総合演習	2
日本史実習	6	文化構造演習	12	卒業研究	10
日本史史料講読	6	文化構造講読	12		
古文書学実習	6	文化構造特殊講義	18		

富山大学教育学部規則の改正

富山大学教育学部規則の改正理由

教育学部のカリキュラムを見直し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長

瀧 澤 弘

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則

富山大学教育学部規則（昭和27年 4 月18日制定）の一部を次のように改正する。

別表Ⅵ 専攻科目 1 学校教育教員養成課程 ④家政教育の表中

保 育 学	保育学Ⅰ(実習 及び家庭看護を 含む。)	2		2	2		2	を
	保育学Ⅱ	2				2		

保 育 学	保育学Ⅰ(実習 及び家庭看護を 含む。)	2		2	2		2	に、
	保育学Ⅱ	2				2		
	保育学演習	2				2		
	児童福祉論	2		2		2		

計	66	6	10	18	16	18	を
		16		34			

計	70	6	10	18	16	18	に
		16		34			

改める。

附 則

- この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 平成13年度以前の入学者については、なお従前の例による。

富山大学経済学部規則の改正

富山大学経済学部規則の改正理由

- 経済学部のカリキュラムを見直し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。
- 追試験の願出期間について、休業日に配慮し、延長を行う。

富山大学経済学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3月15日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学経済学部規則の一部を改正する規則

富山大学経済学部規則（昭和50年6月27日制定）の一部を次のように改正する。

第12条第1項中「5日」を「7日」に改める。

別表第1及び別表第2を次のように改める。（別添のとおり）

附 則

- 1 この規則は、平成14年 4月 1日から施行する。
- 2 平成13年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表第1

別添

授 業 科 目 及 び 単 位 数

昼間主コース

系 列	授 業 科 目							開設 単位	経済学科			経営学科			経営法学科			
									必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択	
経 済 学 系	理論 経済学	ミマ	クク	口口	経経	済済	学学	4		4							4	
		政経	治済	資済	経変	済動	学学	4		4							4	
		現経	代	資	本	主	論論	4		4	4						4	
		厚数	生理	生理	経経	済済	史学	4		4	4						4	
		社社	会会	会会	体経	済済	学学	4		4	4						4	
		開	発	発	経経	済済	学学	4		4	4						4	
		比 較 経 済 論	経西	日世	日世	史経	総済	論史	4			4						4
			日世	外	外	経経	済済	史史	4			4						4
			日世	本本	本本	産地	業理	史論	4			4						4
			日世	地地	地地	産地	業理	情論	4			4						4
			日世	社社	社社	産地	業理	論論	4			4						4
			日世	比産	比産	産地	業理	論論	4			4						4
	日世		地地	地地	産地	業理	論論	4			4						4	
	日世		地地	地地	産地	業理	論論	4			4						4	
	日世		地地	地地	産地	業理	論論	4			4						4	
	日世		地地	地地	産地	業理	論論	4			4						4	
	日世		地地	地地	産地	業理	論論	4			4						4	
	日世		地地	地地	産地	業理	論論	4			4						4	
	政 策 科 学	経産	業業	策策	策策	原	理策	4			4						4	
		農社	業業	策策	策策	原	策策	4			4						4	
		資資	源源	策策	策策	原	策策	4			4						4	
		統統	働働	策策	策策	原	策策	4			4						4	
		応計	用用	策策	策策	原	策策	4			4						4	
		計計	量量	策策	策策	原	策策	4			4						4	
応 用 経 済 学		金金	融融	融融	機機	関融	論論	4			4						4	
		国財	際際	際際	金金	関融	論論	4			4						4	
		財財	政政	政政	融融	関融	論論	4			4						4	
		地地	方方	方方	融融	関融	論論	4			4						4	
		公公	共共	共共	融融	関融	論論	4			4						4	
		国多	際際	際際	融融	関融	論論	4			4						4	

系 列	授 業 科 目					開 設 単 位	経済学科			経営学科			経営法学科		
							必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択
経 営 学 系	経 営 学	論	概	学	經	4			4		4			4	
		論	理	組	經	4			4		4			4	
		論	略	管	現	4			4		4			4	
		論	營	戰	經	4			4		4			4	
		論	境	經	環	4			4		4			4	
		論	史	營	管	4			4		4			4	
		論	論	管	管	4			4		4			4	
		論	史	管	管	4			4		4			4	
		論	論	管	管	4			4		4			4	
		論	論	管	管	4			4		4			4	
		論	論	管	管	4			4		4			4	
		論	論	管	管	4			4		4			4	
	応 用 経 営 学	論	通	總	論	4			4		4			4	
		論	マ	一	ケ	テ	4			4				4	
		論	交	保	リ	ス	ク			4				4	
		論	貿	比	原	管	4			4				4	
		論	較	価	理	4			4		4			4	
		論	通	算	計	4			4		4			4	
		論	流	計	會	4			4		4			4	
		論	通	計	會	4			4		4			4	
		論	通	計	會	4			4		4			4	
		論	通	計	會	4			4		4			4	
		論	通	計	會	4			4		4			4	
		論	通	計	會	4			4		4			4	
	管 理 科 学	学	基	礎	数	4			4		4			4	
		分	デ	ル	分	4			4		4			4	
		学	モ	デ	ル	4			4		4			4	
		論	營	決	定	4			4		4			4	
		計	思	營	統	4			4		4			4	
		計	ハ	レ	シ	ヨ	4			4		4		4	
		計	シ	レ	シ	ヨ	4			4		4		4	
		計	シ	レ	シ	ヨ	4			4		4		4	
		計	シ	レ	シ	ヨ	4			4		4		4	
		計	シ	レ	シ	ヨ	4			4		4		4	
		計	シ	レ	シ	ヨ	4			4		4		4	
		計	シ	レ	シ	ヨ	4			4		4		4	
経 営 法 学 系	法	憲	法	法	4			4				4	4		
	法	憲	法	法	4			4				4	4		
	法	憲	法	法	4			4				4	4		
	法	憲	法	法	4			4				4	4		
	法	憲	法	法	4			4				4	4		
	法	憲	法	法	4			4				4	4		
	法	憲	法	法	4			4				4	4		
	法	憲	法	法	4			4				4	4		
	法	憲	法	法	4			4				4	4		
	法	憲	法	法	4			4				4	4		
	法	憲	法	法	4			4				4	4		
	法	憲	法	法	4			4				4	4		
民 事 法	法	民	物	債	4			4				4	4		
	法	民	物	債	4			4				4	4		
	法	民	物	債	4			4				4	4		
	法	民	物	債	4			4				4	4		
	法	民	物	債	4			4				4	4		
	法	民	物	債	4			4				4	4		

系 列	授 業 科 目				開 設 単 位	経済学科			経営学科			経営法学科					
						必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択			
経 営 法 学 系	民 事 法	家	融	族	引	法	4			4			4			4	
		金	事	取	訟	法	4			4			4			4	
		民	事	訴	行	法	4			4			4			4	
		破	事	執		法	4			4			4			4	
				産		法	4			4			4			4	
	企 業 関 係 法	商	法	則	・	商	行	為	法	4			4			4	
		会	形	小	社	切	手	商	法	4			4			4	
		手	除	・	海	取	引	法	法	4			4			4	
		保	券	取	濟	保	護	法	法	4			4			4	
		証	費	者	保	護	法	法	2				2			2	
		經	使	者	関	係	障	引	法	法	4			4			4
		消	用	取	保	障	引	法	法	2			2			2	
		勞	會	取	業	私	公	組	法	法	4			4			4
		雇	際	取	業	私	公	組	法	法	2			2			2
		社	際	取	業	私	公	組	法	法	2			2			2
		国	際	取	業	私	公	組	法	法	4			4			4
		国	際	取	業	私	公	組	法	法	2			2			2
		国	際	取	業	私	公	組	法	法	4			4			4
		国	際	取	業	私	公	組	法	法	2			2			2
		共 通	經	濟	学	学	演	演	習	8	8		8				
法	学		学	卒	業	論	習	8				8					
法	学		卒	業	論	論	文	6	6		6						
法	学		卒	業	論	論	文	6				6					
法	学		基	礎	礎	演	習	2	2		2						
法	学		基	礎	礎	演	習	2				2					
法	学		基	礎	礎	演	習	2				2					
法	学		外	国	書	講	講	4		4							
法	学		外	国	書	講	講	4				4					
法	学		外	国	書	講	講	4							4		
法	学		外	国	書	講	講	4							4		
法	学		外	国	書	講	講	4							4		
法	学		外	国	書	講	講	4							4		
教育職員免 許状取得の ための授業 科目	総	合	演	習			2				2				2		
	職	業	指	導			4				4				4		
計						12	16 108以上			12 108以上			12 108以上				
備考																	
1 この表に掲げる授業科目のほか、特殊講義を設けることができる。																	
2 自由科目としての教養科目及び共通基礎科目を専門科目の選択科目とし卒業要件単位に含めることができる。																	
3 教育職員免許状取得のための授業科目は、卒業要件単位のうちに加えない。																	

授 業 科 目 及 び 単 位 数

夜間主コース

系 列	授 業 科 目		開設 単位	経済学科			経営学科			経営法学科		
				必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択
経 済 学 系	理論経済学	ミマ	4		4				4			4
		クク	4		4				4			4
		口口	4		4				4			4
		口口	4		4				4			4
		口口	4		4				4			4
		口口	4		4				4			4
		口口	4		4				4			4
		口口	4		4				4			4
		口口	4		4				4			4
		口口	4		4				4			4
		口口	4		4				4			4
		口口	4		4				4			4
	比較経済論	経世	4			4			4			4
		日経	4			4			4			4
		地産	4			4			4			4
		社産	4			4			4			4
		環比	4			4			4			4
		環比	4			4			4			4
		環比	4			4			4			4
		環比	4			4			4			4
		環比	4			4			4			4
		環比	4			4			4			4
		環比	4			4			4			4
		環比	4			4			4			4
政策科学	経産	4			4			4			4	
	農社	4			4			4			4	
	資勞	4			4			4			4	
	統計	4			4			4			4	
	統計	4			4			4			4	
	統計	4			4			4			4	
	統計	4			4			4			4	
	統計	4			4			4			4	
	統計	4			4			4			4	
	統計	4			4			4			4	
	統計	4			4			4			4	
	統計	4			4			4			4	
応用経済学	金金	4			4			4			4	
	国財	4			4			4			4	
	地公	4			4			4			4	
	公国	4			4			4			4	
	公国	4			4			4			4	
	公国	4			4			4			4	
	公国	4			4			4			4	
	公国	4			4			4			4	
	公国	4			4			4			4	
	公国	4			4			4			4	
	公国	4			4			4			4	
	経 営 学 系	経営学	経経	4				4				4
現経			4				4				4	
財財			4				4				4	
会簿			4				4				4	
簿国			4				4				4	
国比			4				4				4	
応用経営学		流マ	4				4				4	
		交保	4				4				4	
		り買	4				4				4	
		り買	4				4				4	
		り買	4				4				4	
		り買	4				4				4	

系 列	授 業 科 目						開設 単位	経済学科			経営学科			経営法学科																																																			
								必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択																																																	
経 営 学 系	応用経営	比原管	較働理	流計会	通算計	論論論	4			4		4			4																																																		
							4			4		4		4																																																			
							4			4		4		4																																																			
	管理科学	経営科 学概 説学 析計 子析 論論 習	経営学 管モデ ル統 リ分 報ム 演	管モデ ル統 リ分 報ム 演	学概 説学 析計 子析 論論 習	学概 説学 析計 子析 論論 習	4			4	4				4																																																		
							4			4	4			4																																																			
							4			4	4			4																																																			
							4			4	4			4																																																			
							4			4	4			4																																																			
							4			4	4			4																																																			
							4			4	4			4																																																			
							4			4	4			4																																																			
							4			4	4			4																																																			
							4			4	4			4																																																			
							4			4	4			4																																																			
経 営 法 学 系	基礎法	憲行税 地地方 地地方 刑事 法英比 政政 国際	政自 治務 治員 訟 訟 概 治	法法 法法 法法 法法 法法 法法 論論 学学	法法 法法 法法 法法 法法 法法 論論 学学	4			4				4																																																				
						4			4			4																																																					
						4			4			4																																																					
						2			2			2																																																					
						2			2			2																																																					
						4			4			4																																																					
						4			4			4																																																					
						4			4			4																																																					
						4			4			4																																																					
						2			2			2																																																					
						2			2			2																																																					
						2			2			2																																																					
	民事法	財財家 金民破 融事	産産 族取 訴産 引訟	法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法	法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法	I II 法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法	4			4				4																																																			
							4			4			4																																																				
							4			4			4																																																				
							4			4			4																																																				
							4			4			4																																																				
							4			4			4																																																				
							2			2			2																																																				
							2			2			2																																																				
							2			2			2																																																				
							2			2			2																																																				
							2			2			2																																																				
							2			2			2																																																				
企業 関 係 法	商手保 証經消 雇社 国国 国際	形險 券費 會際 際經	小・取 濟用 保取 公組 織	切海 保 障引 引	手商 引 護 引	法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法	法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法	4			4				4																																																		
								4			4			4																																																			
								2			2			2																																																			
								4			4			4																																																			
								4			4			4																																																			
								4			4			4																																																			
								2			2			2																																																			
								2			2			2																																																			
								2			2			2																																																			
								2			2			2																																																			
								2			2			2																																																			
								2			2			2																																																			
共 通	経法 法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法 法法	済管 学学 卒卒 国学 学学 外 科	学学 卒卒 国学 学学 外 科	演演 業業 書書 入入	演演 業業 書書 入入	習習 習習 文文 文文 文文 文文 文文 文文 文文 文文 文文 文文	習習 習習 文文 文文 文文 文文 文文 文文 文文 文文 文文 文文	8	} 8	} 8	} 8	} 8	} 8	} 8	} 8																																																		
								8								} 6	} 6	} 6	} 6	} 6																																													
								8													} 6	} 6	} 6	} 6	} 6																																								
								8																		} 6	} 6	} 6	} 6	} 6																																			
								6																							} 6	} 6	} 6	} 6	} 6																														
								6																												} 6	} 6	} 6	} 6	} 6																									
								6																																	} 6	} 6	} 6	} 6	} 6																				
								6																																						} 6	} 6	} 6	} 6	} 6															
								4																																											} 6	} 6	} 6	} 6	} 6										
								2																																																} 6	} 6	} 6	} 6	} 6					
								2																																																					} 6	} 6	} 6	} 6	} 6
								2																																																									
4	} 6	} 6	} 6	} 6	} 6																																																												

系 列	授 業 科 目	開 設 単 位	経済学科			経営学科			経営法学科		
			必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択	必 修	選 択 必 修	選 択
教育職員免 許状取得の ための授業 科目	総 合 演 習	2			2			2			2
	職 業 指 導	4			4			4			4
計			8	12		8	12		8	12	
			102以上			102以上			102以上		

備考

- この表に掲げる授業科目のほか、特殊講義を設けることができる。
- 自由科目としての教養科目及び共通基礎科目を専門科目の選択科目とし卒業要件単位に含めることができる。
- 教育職員免許状取得のための授業科目は、卒業要件単位のうちに加えない。

別表第2

単 位 取 得 方 法

(昼間主コース)

区 分		経 済 学 科		所要単位	経 営 学 科		所要単位	経 営 法 学 科		所要単位				
専 門 科 目	専 攻 科 目	必 修	経済学基礎演習	2	16	経営学基礎演習	2	16	法学基礎演習	2	16			
			経営学基礎演習			経済学基礎演習			法学演習	8				
			経済学演習	8		経営学演習	8		経済学演習			法学卒業論文	6	
			経営学演習			経済学演習			経営学卒業論文	6		経済学卒業論文		
	専 門 基 礎 科 目	選 択 必 修	ミクロ経済学	12	92	経営学概論	12	92	憲法 I	12	92			
			マクロ経済学						会計学総論				刑法総論	
			政治経済学						流通総論				民法総則	
	専 攻 科 目	選 択	経済学入門	52	52	経営基礎数学	52	52	法学 I	52	52			
			社会科学入門						経営学系				法学 II	
			経済学系						経済学系				経営法学系	
合計		108以上		108以上		108以上		108以上		108以上				

注 30単位を限度として、夜間主コースで開講される専門科目から履修することができる。ただし、演習、専門基礎科目、外国書講読及び卒業論文は除く。
 自学科専門基礎科目のうち選択必修12単位を超えて修得した単位については、自学科系専攻科目52単位に含むことができる。
 自由科目の単位修得方法については、教養教育ガイドを参照すること。

(夜間主コース)

区 分		経 済 学 科	所要単位	経 営 学 科	所要単位	経 営 法 学 科	所要単位
専 門 科 目	専攻科目 必修	経済学演習 経営学演習 法学演習	8	経営学演習 経済学演習 法学演習	8	法学演習 経済学演習 経営学演習	8
	専門基礎科目 選択 必修	ミクロ経済学 マクロ経済学 政治経済学 社会学入門	12	経営学概論 簿記原理論 流通総論 経営科学概説	12	憲法 刑法 財産法 法Ⅰ学	12
	専攻科目 選択	経済・経営・経営法 学系，共通	102以上	経済・経営・経営法 学系，共通	102以上	法学卒業論文	20
		自由科目としての教 養科目及び共通基礎 科目 (8単位まで)		自由科目としての教 養科目及び共通基礎 科目 (8単位まで)		経営法学系 経済・経営学系，共通 自由科目としての教 養科目及び共通基礎 科目 (8単位まで)	
合計		102以上		102以上		102以上	

注 30単位を限度として、昼間主コースで開講される専門科目から履修することができる。ただし、基礎演習、演習、専門基礎科目、外国書講読及び卒業論文は除く。
 経営法学科の専門基礎科目及び法学卒業論文のうち選択必修12単位を超えて修得した単位については、経営法学系20単位に含むことができる。
 自由科目の単位修得方法については、教養教育ガイドを参照すること。

富山大学理学部規則の改正

富山大学理学部規則の改正理由

理学部生物学科及び生物圏環境科学科の専門科目のカリキュラムを見直し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学理学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧澤 弘

富山大学理学部規則の一部を改正する規則

富山大学理学部規則（昭和52年 5 月16日制定）の一部を次のように改正する。

別表Ⅰ（第3条第2項関係）生物学科及び生物圏環境科学科の表並びに別表Ⅱ（第4条関係）を次のように改める。

附 則

- この規則は、平成14年 4 月 1 日から施行する。
- 平成13年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表第1 (第3条第2項関係)

授 業 科 目 及 び 単 位 数

生物学科

専門基礎科目	単位数		専攻科目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
微分積分学Ⅰ		2	基礎動物形態学	2	
微分積分学Ⅱ		2	基礎植物形態学	2	
線形代数学		2	植物分類学		2
応用数学基礎		2	基礎系統学	2	
物理学序説Ⅰ		2	基礎分類学	2	
物理学序説Ⅱ		2	系統進化学特論		1
物理学概論Ⅰ		2	比較内分泌学		1
物理学概論Ⅱ		2	形態形成学		1
化学序説Ⅰ		2	形態学特論		1
化学序説Ⅱ		2	動物系統進化学		1
化学概論Ⅰ		2	動物行動学		1
化学概論Ⅱ		2	動物生理学		2
地球科学序説Ⅰ		2	基礎生理学	2	
地球科学序説Ⅱ		2	植物生理学		2
地球科学概論Ⅰ		2	生物科学特論		2
地球科学概論Ⅱ		2	植物系統進化学		2
生物圏環境科学概論Ⅰ		2	応用生物学		1
生物圏環境科学概論Ⅱ		2	生体構造学実験	6	
放射線基礎学		2	臨海実験Ⅰ		1
基礎物理学実験		1	臨海実験Ⅱ		1
基礎化学実験		1	野外実験Ⅰ		1
基礎地球科学実験		1	野外実験Ⅱ		1
基礎生物圏環境科学実験		1	分子生物学		2
総合演習		2			
学外体験実習		1又は2			
			放射線生物学		1
			放射線生物学特別講義		1
			生体調節学		2
			生理活性物質化学		2
			発生制御学		2
			基礎発生学	2	
			動物発生学		2
			細胞生物学		2
			遺伝学		2
			植物発生学		2
			基礎細胞学	2	
			基礎遺伝学	2	
			微生物科学		1
			細胞生物学特論		1
			細胞生理学		2
			遺伝学特論		1
			資源生物学		1
			生体制御学実験	6	
			科学英語	2	
			生物学特別講義		*
			卒業論文	12	

*印を付した生物学特別講義の単位数は、必要に応じて定める。

生物圏環境科学科

専門基礎科目	単位数		専攻科目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
微分積分学Ⅰ		2	環境生物学概論	2	
微分積分学Ⅱ		2	生物物理化学	2	
線形代数学		2	生物化学		1
応用数学基礎		2			
物理学序説Ⅰ		2			
物理学序説Ⅱ		2	環境植物生理学	2	
物理学概論Ⅰ		2	生理化学		2
物理学概論Ⅱ		2			
化学序説Ⅰ		2			
化学序説Ⅱ		2	生体応答学	2	
化学概論Ⅰ		2	植物生態学	2	
化学概論Ⅱ		2	環境微生物学		2
生物学序説Ⅰ		2			
生物学序説Ⅱ		2			
生物学概論Ⅰ		2	生体エネルギー論	2	
生物学概論Ⅱ		2	環境基礎生物学	2	
地球科学序説Ⅰ		2	植生変動論		2
地球科学序説Ⅱ		2			
地球科学概論Ⅰ		2	動物生理学特別講義		1
地球科学概論Ⅱ		2	植物生理学特別講義		1
放射線基礎学		2	生体応答学特別講義		1
基礎物理学実験		1	生態学		1
基礎化学実験		1	放射線生物学		1
基礎生物学実験		1	放射線生物学特別講義		1
基礎地球科学実験		1	生物圏機能実験	6	
総合演習		2	環境物理化学	2	
学外体験実習		1又は2	環境化学概論	2	
			環境基礎化学	2	
			水環境化学	2	
			環境無機化学		2
			基礎有機化学	2	
			一般地質学		2
			環境化学計測	2	
			地球化学	2	
			環境化学演習		2
			有機化学		2
			環境同位体学		2
			陸水化学		2
			環境地球化学		2
			環境保全化学		2
			環境地球化学特別講義		2
			計測化学特別講義		1
			環境計測特別講義		1
			環境化学計測実験	6	
			科学英語		4
			野外実習Ⅰ		2
			野外実習Ⅱ		2
			生物圏環境科学特別講義		*
			卒業論文	12	

*印を付した生物圏環境科学特別講義の単位数は、必要に応じて定める。

別表第Ⅱ（第4条関係）

卒業に必要な修得単位数

区 分	物理学科		化学科		生物学科		地球科学科		生物圏環境科学科				
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択			
教養科目 （人文科学・社会科学系） 総合科目		12又は14		12又は14		12又は14		12又は14		12又は14			
		6又は4		6又は4		6又は4		6又は4		6又は4			
	小計	18		18		18		18		18			
共通基礎科目	外国語科目 （英語を含む2ヶ国語）	8		8		8		8		8			
	保健体育科目	2		2		2		2		2			
	情報処理科目又は言語表現科目	2		2		2		2		2			
	小計	12		12		12		12		12			
専門科目	専門基礎科目	12	8	10	10	1	19		20		20		
	専攻科目	42	22	50	14	55	9	42	22	31	33	52	12
	小計	54	30	60	24	56	28	42	42	31	53	52	32
自由（選択）科目	10		10		10		10		10		10		
合計	124		124		124		124		124		124		
1 教養原論は、人文科学系及び社会科学系から各4単位以上選択し、12単位又は14単位を修得すること。 2 外国語は2カ国語（英語を含む。）を各4単位、計8単位以上を修得すること。 3 外国人留学生に対し、日本事情及び日本語に関する科目を開講しているが、修得方法は別に定める。 4 専攻科目の選択は、他学科の専攻科目（一部の科目を除く。）のうちからも選択することができる。 5 専門基礎科目の学外体験実習の修得単位は、自由（選択）科目として認定する。													

富山大学工学部規則の改正

富山大学工学部規則の改正理由

工学部のカリキュラムを見直し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学工学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年3月15日

富山大学長 瀧澤 弘

富山大学工学部規則の一部を改正する規則

富山大学工学部規則（平成5年4月1日全部改正）の一部を次のように改正する。

別表Ⅰ（第4条関係）及び別表Ⅱ（第6条関係）を次のように改める。（別添のとおり）

附 則

- この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 平成13年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表Ⅰ（第4条関係）

卒業に必要な修得単位数

区 分		電 気 電 子 シ ス テ ム 工 学 科	知 能 情 報 工 学 科	機 械 知 能 シ ス テ ム 工 学 科	物 質 生 命 シ ス テ ム 工 学 科
教養科目から修得する単位数		18			
共通基礎科目から修得する単位数		12			
小 計		30			
専 門 科 目	専門基礎科目から修得する単位数	38以上	84以上	10以上	84以上
	専攻科目から修得する単位数	46以上		74以上	
	小 計	84以上			
自 由 単 位		10以内			
合 計		124			

- 備考 1 単位の修得方法については、別表Ⅱで示す。
 2 自由単位は、富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める自由科目及び他学科の専攻科目並びに他学部専攻科目から履修した単位である。
 3 教養科目・共通基礎科目及び専門科目の修得単位数合計が卒業に必要な124単位数に満たない場合は、自由単位の内10単位数を限度として卒業に必要な修得単位数124単位数に含めることができる。
 ただし、教職に関する除業科目の単位は除く。

別表Ⅱ（第6条関係）

電気電子システム工学科

授 業 科 目 名		単 位 数			
		必修	選必	選択	自由 選択
専 門 基 礎 科 目	微分積分 1			2	
	微分積分 2			2	
	線形代数			2	
	微分方程式 1			2	
	微分方程式 2			2	
	ベクトル解析			2	
	複素解析			2	
	計算機工学			2	
	数値解析			2	
	プログラミング 1			2	
	プログラミング 2			2	
	力学			2	
	熱・波動			2	
	化学			2	
	量子力学			2	
	電磁気学 1			2	
	電磁気学演習 1			1	
	電磁気学 2			2	
	電磁気学演習 2			1	
	電気回路 1 A			2	
	電気回路 1 B			2	
	電気回路演習 1			1	
	電気回路 2			2	
	電気回路演習 2			1	
	アナログ電子回路 1			2	
	アナログ電子回路 2			2	
アナログ電子回路演習			1		
デジタル電子回路			2		

授 業 科 目 名		単 位 数			
		必修	選必	選択	自由 選択
専 攻 科 目	電力発生工学			3	
	電気エネルギー伝送工学1			2	
	電気エネルギー伝送工学2			2	
	高電圧工学			2	
	パワーエレクトロニクス			2	
	電気機器工学1			2	
	電気機器工学2			2	
	電動応用工学			2	
	電気電子工学設計製図			2	
	プラズマ理工学			2	
	法規及び管理			1	
	電磁波工学1			2	
	電磁波工学2			2	
	信号処理工学			2	
	通信方式			2	
	通信システム			2	
	電波法規			1	
	計算電磁工学			2	
	電気電子計測工学			2	
	センサ工学			2	
	システム制御工学1			2	
システム制御工学2			2		
電気電子材料工学			2		
結晶物理工学			2		
電子物性工学1			2		
専 攻 科 目	電子物性工学2			2	
	量子効果デバイス			2	
	量子光工学			2	
	表面エレクトロニクス			2	
	半導体デバイス1			2	
	半導体デバイス2			2	
	集積回路工学			2	
	光・電子デバイス			2	
	ナノエレクトロニクス			2	
	安全・開発管理工学	2			
	専門基礎ゼミナール(数学基礎演習)	2			
	自由課題製作実験	1			
	電気電子実験1	2			
	電気電子実験2	2			
	電気電子実験3	2			
	電気電子実験4	2			
	電気電子工学論文輪読	1			
卒業論文	10				
工業英語			2		
英語コミュニケーション			2		
工学倫理			2		
電気電子システム工学特論					
職業指導				4	
情報化社会と教育				2	

備考

- 1 電気電子システム工学特論の単位数は必要に応じて定める。
- 2 卒業に必要な修得単位数は、次の条件を満たし124単位以上であること。
 - (1) 教養科目、共通基礎科目
富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める選択科目
30単位以上
 - (2) 専門科目
専門基礎科目は51単位中38単位以上、専攻科目は必修科目24単位を含め
46単位以上、合計84単位以上
84単位の内訳は、学科の定めるところによる。
- 3 職業指導及び情報化社会と教育の単位は、卒業に必要な修得単位数には含まれない。

知能情報工学科

授 業 科 目 名		単 位 数		
		必修	選択	自由 選択
専 門 基 礎 科 目	微分積分	2		
	線形代数	2		
	確率統計論	2		
	離散数学	2		
	線形代数演習		2	
	微分方程式		2	
	離散数学演習		2	
専 攻 科 目	プログラミング	2		
	計算機アーキテクチャ	2		
	アルゴリズムとデータ構造	2		
	ソフトウェア工学	2		
	ヒューマンコンピュータインタラクション	2		
	情報ネットワーク	2		
	数値解析	2		
	プログラミング言語論	2		
	オペレーティングシステム	2		
	データベース論	2		
	計算論	2		
	記号処理	2		
	知的システム	2		
	電気回路工学		2	
	論理情報回路		2	
	情報理論		2	
	人工知能		2	
	オートマトン・言語理論		2	
	多変量解析論		2	
	視覚情報処理		2	
	電子回路工学		2	
	電磁波工学		2	
	符号理論		2	
	デジタル信号処理		2	
	自然言語処理		2	
	コンパイラ構成法		2	
	高度通信方式		2	
	画像処理工学		2	
	コンピュータグラフィクス		2	
	知能生体情報工学		2	
	光通信工学		2	
	マルチメディア工学		2	
	情報セキュリティ		2	
	音情報学		2	
	仮想現実感方式		2	
	ブレインコンピューティング		2	
パターン認識		2		
知能情報工学基礎ゼミ	2			
安全・開発管理工学	2			
工学倫理	2			
知能情報工学基礎演習	2			
知能情報工学実験第1	2			
知能情報工学実験第2	2			
知能情報工学実験第3	2			
知能情報工学実験第4	2			
自由製作実験	2			

授 業 科 目 名		単 位 数		
		必修	選択	自由 選択
専 攻 科 目	知能情報工学研修第1	2		
	知能情報工学研修第2	2		
	卒業論文	10		
	工業英語		2	
	英語コミュニケーション		2	
	工業ロシア語		2	
	知能情報工学特論			
	職業指導			4
	情報化社会と教育			2

備考

- 知能情報工学特論の単位数は必要に応じて定める。
- 卒業に必要な修得単位数は、次の条件を満たし124単位以上であること。
 - 教養科目、共通基礎科目
富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める選択科目30単位以上
 - 専門科目
専門基礎科目及び専攻科目は必修科目66単位、選択科目18単位以上、合計84単位以上
84単位の内訳は、学科の定めるところによる。
- 職業指導及び情報化社会と教育の単位は、卒業に必要な修得単位数には含めない。

機械知能システム工学科

授 業 科 目 名		単 位 数				科目 群
		必修	選択 必修	選択	自由 選択	
専 門 基 礎 科 目	微分積分第1			2		A
	微分積分第2			2		
	線形代数第1			2		
	線形代数第2			2		
	微分方程式			2		
専 攻 科 目	工業力学	2				B
	電磁気学			2		
	量子力学			2		
	化学			2		
専 攻 科 目	材料力学第1			2		C
	材料力学第2			2		
	固体力学			2		
	材料強度演習第1	1				D
	強度設計工学			2		
要素設計学第1			2			
要素設計学第2			2			
専 攻 科 目	材料強度演習第2	1				E
	生産加工学			2		
	切削加工学			2		
	精密加工学			2		
	生産加工学演習	1				
専 攻 科 目	基礎材料工学			2		F
	機械材料工学			2		
	塑性工学			2		
	塑性・材料工学演習	1				

授 業 科 目 名		単 位 数				
		必修	選択 必修	選択	自由 選択	科目 群
専 攻 科 目	基礎熱力学 応用熱力学 伝熱工学 熱工学演習	1		2 2 2		G
	基礎流体力学 流体機械 流体力学 流体工学演習	1		2 2 2		H
	数理解析学第1 数理解析学第2 環境数値解析工学 数理解析学演習	1		2 2 2		I
	動的設計解析学 機構学 機械力学 機械動的解析演習	1		2 2 2		J
	制御工学第1 制御工学第2 メカトロニクス 制御工学演習	1		2 2 2		K
	応用情報工学 計測工学 精密測定学 計測工学・精密測定学演習	1		2 2 2		L
	基礎情報工学 機械情報理論 シミュレーション工学 ソフトウェア工学演習	1		2 2 2		M
	環境工学概論 技術史 バイオメカニクス 熱エネルギー変換 英語コミュニケーション 工業英語 工業ドイツ語 機械安全工学 機械工学自由演習 機械入門ゼミナール 機械知能システム工学特論			2 2 2 2 2 2 2 1 1 2		共 通
	工学倫理 機械工学輪読 機械工学設計製図第1 機械工学設計製図第2 機械工学実習 機械工学実験 卒業論文	2 2 2 2 2 4 10				
	職業指導 情報化社会と教育				4 2	

備考

- 1 機械知能システム工学特論の単位数は必要に応じて定める。
- 2 卒業に必要な修得単位数は、次の条件を満たし124単位以上であること。
 - (1) 教養科目、共通基礎科目
富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める選択科目30単位以上
 - (2) 専門科目
専門基礎科目は18単位中必修2単位を含め10単位以上、専攻科目は必修科目35単位を含め74単位以上、合計84単位以上
84単位の内訳は、学科の定めるところによる。
- 3 職業指導及び情報化社会と教育の単位は、卒業に必要な修得単位数には含まない。

物質生命システム工学科

授 業 科 目 名		単 位 数			
		必修	選択 必修	選択	自由 選択
専 門 基 礎 科 目	微分積分1			2	
	微分積分2			2	
	線形代数1			2	
	線形代数2			2	
	応用数学1			2	
	応用数学2			2	
	応用数学3			2	
	物理学1			2	
	物理学2			2	
	物理学3			2	
	無機化学1			2	
	無機化学2			2	
	基礎有機化学1			2	
	基礎有機化学2			2	
	分析化学			2	
	物理化学1			2	
	物理化学2			2	
	物理化学3			2	
	生物学			2	
	物質生命システム工学ゼミナール			2	
専門基礎ゼミナール			2		
物理学実験			1		
化学実験			1		
化学演習			2		
専 攻 科 目	資源化学			2	
	無機化学3			2	
	生物有機化学			2	
	生命分子化学演習			2	
	有機化学1			2	
	有機化学2			2	
	有機化学演習			4	
	構造有機化学			2	
	有機合成化学			2	
	有機工業化学			2	
	反応速度論			2	
	電気化学			2	
	無機化学演習			2	
	錯体化学			2	
	量子化学			2	
	物理有機化学			2	
	機器分析化学1			2	
	機器分析化学2			2	
	機器分析化学演習			2	
	環境化学			2	
	環境化学演習			2	
	高分子化学			2	
	生体高分子化学			2	
高分子物理化学			2		
物理化学演習			2		
細胞生産工学1			2		
細胞生産工学2			2		
生命物性工学1			2		
生命物性工学2			2		
細胞工学序論			2		

授 業 科 目 名		単 位 数			
		必修	選択 必修	選択	自由 選択
専 攻 科 目	福祉工学			2	
	生物物理化学			2	
	蛋白質工学			2	
	基礎生理学			2	
	生命物性工学演習			2	
	生化学1			2	
	生化学2			2	
	生化学3			2	
	遺伝子工学1			2	
	遺伝子工学2			2	
	細胞工学			2	
	生命情報工学			2	
	生命計測工学			2	
	生命分子機能工学			2	
	マイクロメリティックス			2	
	粉体物性工学			2	
	粉体プロセス工学1			2	
	粉体プロセス工学2			2	
	プロセス工学量論			2	
	移動現象論1			2	
	移動現象論2			2	
	多相系移動現象論			2	
	反応工学1			2	
	反応工学2			2	
	生物化学工学			2	
	生物反応工学			2	
	拡散操作論			2	
	物質移動論			2	
	分離工学			2	
	拡散プロセス工学			2	
	プロセス設計1			2	
	プロセス設計2			2	
	化学プロセス制御			2	
	プラント設計工学			2	
	プロセス工学計算1			1	
	プロセス工学計算2			2	
	材料製錬工学			2	
	材料精錬工学			2	
	金属化学			2	
	腐食・防食工学			2	
	機能材料工学1			2	
	機能材料工学2			2	
高温反応工学			2		
材料評価学			2		
結晶構造学			2		
相変態・熱処理論			2		
素形材工学			2		
材料設計工学			2		
材料学序論			2		
材料組織学			2		
材料強度学			2		
組織制御工学			2		
量子工学序論			2		
応用物性工学1			2		
応用物性工学演習			2		
応用物性工学2			2		
材料力学			4		
材料設計工学演習			2		

授 業 科 目 名		単 位 数			
		必修	選択 必修	選択	自由 選択
専 攻 科 目	材料物性工学演習			2	
	機能材料工学演習			2	
	材料化学演習			2	
	応用化学実験 1		1.5		
	応用化学実験 2		1.5		
	応用化学実験 3		1.5		
	応用化学実験 4		1.5		
	応用化学実験 5		1.5		
	応用化学実験 6		1.5		
	生命工学実験 1		1.5		
	生命工学実験 2		1.5		
	生命工学実験 3		1.5		
	生命工学実験 4		1.5		
	プロセス工学実験 1		1		
	プロセス工学実験 2		1		
	プロセス工学実験 3		1		
	プロセス工学実験 4		1		
	プロセス工学実験 5		1		
	材料化学実験		1		
	機能材料工学実験		1		
	材料設計工学実験		1		
	材料物性工学実験		1		
	応用物性工学実験		1		
	工場実習			1	
	応用化学輪読		2		
	生命工学輪読		2		
	プロセス工学輪読		2		
材料工学輪読		2			
自由演習			2		
情報処理			2		
プログラミング及び演習			3		
品質管理			2		
電気工学概論			2		
電子工学概論			2		
機械工学概論			2		
工業英語 1			2		
工業英語 2			2		
工業ドイツ語			2		
英語コミュニケーション			2		
工学倫理			2		
卒業論文	10				
物質生命システム工学特論					
職業指導				4	
情報化社会と教育				2	

備考

- 1 物質生命システム工学特論の単位数は必要に応じて定める。
- 2 卒業に必要な修得単位数は、次の条件を満たし124単位以上であること。
 - (1) 教養科目、共通基礎科目
富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める選択科目30単位以上
 - (2) 専門科目
専門基礎科目及び専攻科目は必修科目10単位を含め84単位以上
84単位の内訳は、学科の定めるところによる。
- 3 職業指導及び情報化社会と教育の単位は、卒業に必要な修得単位数には含まない。

富山大学大学院学則の改正

富山大学大学院学則の改正理由

学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成13年文部科学省令第49号及び第80号）に基づき、大学院入学資格が改正されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学大学院学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧澤 弘

富山大学大学院学則の一部を改正する規則

富山大学大学院学則（昭和53年 4 月1日制定）の一部を次のように改正する。

第25条第1項中第7号を第9号とし、第6号を第8号とし、同号の前に次の2号を加える。

(6) 学校教育法第52条に定める大学に3年以上在学した者（外国において学校教育における15年の課程を修了した者及び外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者を含む。）であって、本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの

(7) 学校教育法第67条第2項の規定により大学院に入学した者であって、研究科における教育を受けるにふさわしい学力があると当該研究科が認めたもの

第25条第1項中第5号を削り、第4号を第5号とし、

第3号の次に次の1号を加える。

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

第25条第2項中第5号を第6号とし、第4号を第5号とし、第3号を第4号とし、第2号の次に次の1号を加える。

(3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者

第25条の2中「第5号」を「第6号」に改める。

附 則

- この学則は、平成14年 4 月1日から施行する。
- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成13年文部科学省令第80号）による改正前の学校教育法施行規則第70条第5号又は第6号の規定により大学院に入学した者の大学院への入学資格に関する取扱いについては、なお従前の例による。

富山大学大学院教育学研究科規則の改正

富山大学大学院教育学研究科規則の改正理由

教育学研究科のカリキュラムを見直し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学大学院教育学研究科規則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧澤 弘

富山大学大学院教育学研究科規則の一部を改正する規則

富山大学大学院教育学研究科規則（平成6年 3 月31日制定）の一部を次のように改正する。

別表第1 (1) 学校教育専攻学校教育専修の表中

発達心理学	発達心理学特論		2	
	発達心理学特論演習		2	
	発達臨床心理学特論		2	
	学校カウンセリング特論演習		2	

を

発達心理学	発達心理学特論		2	
	発達心理学特論演習		2	
	発達臨床心理学特論		2	
	発達臨床心理学特論演習		2	
	学校カウンセリング特論		2	
	学校カウンセリング特論演習		2	

に改め、

(2) 教科教育専攻 ⑦保健体育専修 の表中

保健体育科教育	保健体育科教育研究	2		
	保健体育科教育特論Ⅰ		2	
	保健体育科教育特論演習Ⅰ		2	
	保健体育科教育特論Ⅱ		2	
	保健体育科教育特論演習Ⅱ		2	
	保健体育科教育特論Ⅲ		2	
	保健体育科教育特論演習Ⅲ		2	

を

保健体育科教育	保健体育科教育研究	2		
	保健体育科教育特論Ⅰ		2	
	保健体育科教育特論演習Ⅰ		2	
	保健体育科教育特論Ⅱ		2	
	保健体育科教育特論演習Ⅱ		2	

に改め、

(2) 教科教育専攻 ⑨家政教育専修 の表中

被服学	被服学特論Ⅰ		2	
	被服学特論演習Ⅰ		2	
	被服学特論Ⅱ		2	
	被服学特論演習Ⅱ		2	

を

被服学	被服学特論		2	
	被服学特論演習		2	

に、

家政一般	家庭経営特論Ⅰ		2	
	家庭経営特論演習Ⅰ		2	
	家庭経営特論Ⅱ		2	
	家庭経営特論演習Ⅱ		2	

を

家政一般	家庭経営特論		2	
	家庭経営特論演習		2	

に改める。

- 1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 平成13年度以前の入学者については、なお従前の例による。

富山大学大学院経済学研究科規則の改正

富山大学大学院経済学研究科規則の改正理由

経済学研究科のカリキュラムを見直し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学大学院教育学研究科規則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成14年 3月15日

富山大学長 瀧澤 弘

富山大学大学院経済学研究科規則の一部を改正する規則

富山大学大学院経済学研究科規則（平成3年3月30日制定）の一部を次のように改正する。

別表を次のように改める。（別添のとおり）

附 則

- 1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 平成13年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表

別添

各専攻授業科目及び単位数

専 攻	授 業 科 目	単 位 数	備 考
地 域 ・ 経 済 政 策 専 攻	理論経済学		
	現代経済のモデル分析特殊研究	2	○印の授業科目のうち1科目を必修とする。
	○現代経済のモデル分析演習	8	
	経済変動と安定化特殊研究	2	
	○経済変動と安定化演習	8	
	政治経済学特殊研究	2	
	○政治経済学演習	8	
	経済哲学特殊研究	2	
	○経済哲学演習	8	
	経済学史特殊研究	2	
	○経済学史演習	8	
	情報資本主義分析特殊研究	2	
	○情報資本主義分析演習	8	
	理論経済学特殊研究	2	
	○理論経済学演習	8	
	数理経済学特殊研究	2	
○数理経済学演習	8		

地 域 ・ 経 済 政 策 専 攻	比較経済論	経済理論特殊研究	2
		○経済理論演習	8
		東アジアの経済開発特殊研究	2
		○東アジアの経済開発演習	8
		西洋経済史特殊研究	2
		○西洋経済史演習	8
		日本経済史特殊研究	2
		○日本経済史演習	8
		環境勘定監査論特殊研究	2
		○環境勘定監査論演習	8
		産業立地と地域開発特殊研究	2
		○産業立地と地域開発演習	8
		比較社会学特殊研究	2
		○比較社会学演習	8
		経済発展と産業政策特殊研究	2
		○経済発展と産業政策演習	8
		東南アジアの経済開発特殊研究	2
		東南アジアの経済開発特殊研究	2
		東南アジアの経済開発特殊研究	2
		東南アジアの経済開発特殊研究	2
		○東南アジアの経済開発演習	8
		中国経済特殊研究	2
		○中国経済演習	8
		ロシア経済特殊研究	2
		○ロシア経済演習	8
	政策科学	経済政策と地域産業構造論特殊研究	2
		○経済政策と地域産業構造論演習	8
		資源計画特殊研究	2
		○資源計画演習	8
		社会政策特殊研究	2
		○社会政策演習	8
		計量経済学特殊研究	2
		○計量経済学演習	8
		金融の計量経済分析特殊研究	2
		○金融の計量経済分析演習	8
		労働経済論特殊研究	2
		○労働経済論演習	8
		労働のマクロ経済分析特殊研究	2
		○労働のマクロ経済分析演習	8
	応用経済学	労働のミクロ経済分析特殊研究	2
	○労働のミクロ経済分析演習	8	
	農業政策特殊研究	2	
	○農業政策演習	8	
	金融論特殊研究	2	
	○金融論演習	8	
	財政学特殊研究	2	
	○財政学演習	8	
	公共経済学特殊研究	2	
	○公共経済学演習	8	
	金融制度と経済構造特殊研究	2	
	○金融制度と経済構造演習	8	
	経済計画理論特殊研究	2	
	○経済計画理論演習	8	
	国際経済学特殊研究	2	
	○国際経済学演習	8	
	外国経済書研究	2	

企 画 經 營 專 攻	経営学	財務管理論特殊研究	2	○印の授業科目のうち1科目を必修とする。
		○財務管理論演習	8	
		経営組織論特殊研究	2	
		○経営組織論演習	8	
		経営戦略論特殊研究	2	
		○経営戦略論演習	8	
		経営史特殊研究	2	
		○経営史演習	8	
		企業人材開発論特殊研究	2	
		○企業人材開発論演習	8	
		財務会計論特殊研究	2	
		○財務会計論演習	8	
		会計ディスクロージャー特殊研究	2	
		○会計ディスクロージャー演習	8	
		制度会計論特殊研究	2	
		○制度会計論演習	8	
		経営管理論特殊研究	2	
		○経営管理論演習	8	
		人事戦略特殊研究	2	
		○人事戦略演習	8	
		人的資源管理特殊研究	2	
		○人的資源管理演習	8	
		比較経営論特殊研究	2	
		○比較経営論演習	8	
		国際経営論特殊研究	2	
		○国際経営論演習	8	
		会計情報開示論特殊研究	2	
		サービス経営教育論特殊研究	2	
		○サービス経営教育論演習	8	
	応用経営	マーケティング論特殊研究	2	
		○マーケティング論演習	8	
		リスク・マネジメント特殊研究	2	
		○リスク・マネジメント演習	8	
		管理会計論特殊研究	2	
		○管理会計論演習	8	
		流通論特殊研究	2	
		○流通論演習	8	
		多国籍企業論特殊研究	2	
		○多国籍企業論演習	8	
		交通論特殊研究	2	
	○交通論演習	8		
管理科学	意思決定論特殊研究	2		
	○意思決定論演習	8		
	オペレーションズ・リサーチ特殊研究	2		
	○オペレーションズ・リサーチ演習	8		
	経営情報論特殊研究	2		
	○経営情報論演習	8		
	情報システム特殊研究	2		
	○情報システム演習	8		
	数理計画法特殊研究	2		
	○数理計画法演習	8		
	生産管理論特殊研究	2		
	○生産管理論演習	8		
	経営情報処理特殊研究	2		
基礎法	ヨーロッパ法思想史特殊研究	2		
	○ヨーロッパ法思想史演習	8		
	政治学特殊研究	2		
	○政治学演習	8		

富山大学大学院理工学研究科規則の改正

富山大学大学院理工学研究科規則の改正理由

理工学研究科博士後期課程のカリキュラムを見直し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学大学院理工学研究科規則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成14年 3月15日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学大学院理工学研究科規則の一部を改正する規則

富山大学大学院理工学研究科規則（平成10年 3月27日制定）の一部を次のように改正する。

別表 2（博士後期課程）を次のように改める。（別添のとおり）

附 則

- 1 この規則は、平成14年 4月 1日から施行する。
- 2 平成13年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表 2（博士後期課程）

専 攻	授 業 科 目	単位数	備 考
システム科学専攻	計 算 機 援 用 工 学 特 論	2	○印は必修 科目
	才 一 ト マ ト ン 理 論	2	
	人 間 情 報 工 学 特 論	2	
	音 響 信 号 処 理 特 論	2	
	知 的 イ ン タ フ ェ イ 特 論	2	
	計 算 機 論 理 設 計 特 論	2	
	シ ミ ュ レ ー シ ョ ン 特 論	2	
	自 然 言 語 処 理 特 論	2	
	符 号 理 論 特 論	2	
	画 像 通 信 特 論	2	
	情 報 数 理 特 論	2	
	情 報 伝 送 工 学 特 論	2	
	視 覚 情 報 工 学 特 論	2	
	超 音 波 工 学 特 論	2	
	非 線 形 波 動 特 論	2	
	生 体 情 報 工 学 特 論	2	
	生 体 計 測 工 素 子 特 論	2	
	生 体 機 能 工 学 特 論	2	
	パ タ 一 ン 認 識 特 論	2	
	視 覚 情 報 処 理 特 論	2	
	画 像 情 報 処 理 特 論	2	
	統 計 的 パ タ 一 ン 認 識 特 論	2	
	確 率 解 析 学 特 論	2	
	離 散 数 理 学 特 論	2	
	応 用 数 理 解 析 特 論	2	
	関 数 解 析 学 特 論	2	
	現 象 解 析 特 論	2	
	整 力 数 学 論 系 特 論	2	
多 変 数 複 素 解 析 学 特 論	2		
量 子 数 理 科 学 特 論	2		

富山大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規則の改正

富山大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規則の改正理由

教育学部附属学校園において、平成14年度から完全学校週5日制を実施することに伴い、所要事項を改める。

富山大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成14年 3 月15日

富山大学長 瀧 澤 弘

富山大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則

富山大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規則（平成4年5月1日制定）の一部を次のように改正する。

第1条中「文部省」を「文部科学省」に、「（平成6年文部省訓令第33号）」を「（平成13年文部科学省訓令第12号）」に改める。

第3条を削る。

第4条中「前2条」を「前条」に改め、同条を第3条とする。

第5条第1項中「又は第3条」を削り、同条第2項を削り、同条を第4条とする。

第6条を第5条とし、第7条を第6条とする。

第8条及び第9条を削る。

第10条第2項中「第5号及び第6号」を「第6号及び第7号」に改め、同条を第7条とする。

第11条を第8条とする。

別表3を削り、別表2を次のとおり改める。

別表2

職員の区分	勤務時間	休憩時間	休息時間
各学部に勤務する職員のうち、教育、研究及び学生指導等の業務に従事する職員（教育学部附属学校教員を除く。）で学長が指定する者	午前8時30分～ 午後5時	午後0時30分～ 午後1時	午前10時30分～ 午前10時45分 又は 午後0時15分～ 午後0時30分 午後1時～ 午後1時15分
経済学部夜間主コースの授業等に関連する業務に従事する職員（教員を除く。）で学長が指定する者	午後0時30分～ 午後9時	午後4時30分～ 午後5時	午後4時15分～ 午後4時30分 午後5時～ 午後5時15分
保健管理センターに勤務する職員のうち、看護・救急医療措置に関する業務に従事する職員で学長が指定する者	A 午前8時30分～ 午後5時	午後0時30分～ 午後1時	午後0時15分～ 午後0時30分 午後1時～ 午後1時15分
	B 午前9時～ 午後5時30分	午後1時～ 午後1時30分	午後0時45分～ 午後1時 午後1時30分～ 午後1時45分

教育学部附属小学校の教員	午前 8 時30分～ 午後 5 時	午後 1 時～ 午後 1 時30分	午前10時30分～ 午前10時45分 午後 3 時50分～ 午後 4 時5分
教育学部附属中学校の教員	午前 8 時30分～ 午後 5 時	午後 0 時40分～ 午後 1 時10分	午前 9 時40分～ 午前 9 時50分 午前11時40分～ 午前11時45分 午後 1 時10分～ 午後 1 時25分
教育学部附属養護学校の教員	午前 8 時30分～ 午後 5 時	午後 0 時40分～ 午後 1 時10分	午前 8 時55分～ 午前 9 時 午前10時30分～ 午前10時40分 午後 3 時20分～ 午後 3 時35分
教育学部附属幼稚園の教員	午前 8 時30分～ 午後 5 時	午後 0 時30分～ 午後 1 時	午前10時15分～ 午前10時30分 午後 1 時～ 午後 1 時15分

附 則

この規則は、平成14年 4月 1 日から施行する。



国立大学再編・統合検討委員会（3月1日）

（審議事項）

- (1) 各部会報告について
- (2) 富山県内国立大学の再編・統合に係る懇談会について

入学試験委員会（3月1日）

（審議事項）

- (1) 入試関係委員会規則等について

富山大学の組織運営体制の整備に関する検討委員会（3月4日）

（審議事項）

- (1) 組織運営体制の整備について

留学生センター運営委員会（3月4日）

（審議事項）

- (1) 富山大学留学生センター紀要投稿要項（案）について
- (2) 日本語研修コース受講者（学内選考）の募集について
- (3) 日本語課外補講の実施について
- (4) 外国人留学生（学部新入生）に対するオリエンテーションについて
- (5) 日本語課外補講のオリエンテーションについて

生涯学習教育研究センター運営委員会（3月4日）

（審議事項）

- (1) 次期センター長候補者の選考日程について
- (2) 富山大学の授業公開について

施設整備委員会（3月14日）

（審議事項）

- (1) 富山大学施設利用細則について

大学教育委員会（3月14日）

（審議事項）

- (1) 教養教育副実施機構長の推薦について
- (2) 大学教育委員会規則の一部改正について
- (3) 平成15年度入学式について

- (4) 本学以外での学修の単位認定について

部局長会議（3月15日）

（審議事項）

- (1) 学生の除籍について

評議会（3月15日）

（審議事項）

- (1) 富山大学運営諮問会議委員候補者について
- (2) 中華人民共和国山東大学との大学間学術交流協定について
- (3) 平成15年度入学式の挙行日について
- (4) 富山大学学則の一部改正について
- (5) 富山大学入学試験管理委員会規則の制定について
- (6) 富山大学入学試験実施委員会規則の制定について
- (7) 富山大学入学者選抜方法研究委員会規則の制定について
- (8) 富山大学教育委員会規則の一部改正について
- (9) 富山大学名誉教授称号授与規則の一部改正について
- (10) 富山大学人文学部教授会規則の一部改正について
- (11) 富山大学人文学部規則の一部改正について
- (12) 富山大学教育学部規則の一部改正について
- (13) 富山大学経済学部規則の一部改正について
- (14) 富山大学理学部規則の一部改正について
- (15) 富山大学工学部規則の一部改正について
- (16) 富山大学大学院学則の一部改正について
- (17) 富山大学大学院教育学研究科規則の一部改正について
- (18) 富山大学大学院経済学研究科規則の一部改正について
- (19) 富山大学大学院理工学研究科規則の一部改正について
- (20) 富山大学総務委員会規則及び富山大学体育施設委員会規則の一部改正について
- (21) 富山大学評議会における審議事項の委任に関する申合せの一部改正について
- (22) 富山大学自己点検評価規則の一部改正について
- (23) 富山大学センター等連絡会要項の制定について
- (24) 富山大学評議会へのオブザーバー出席に関する申合せについて

(25) 富山大学学長選考規則及び富山大学学長選考実施細則の一部改正について

(26) 富山大学における教員の教育業績の適正な評価方法について

(27) 富山県内国立大学の再編・統合について

大学院委員会（3月15日）

（審議事項）

(1) 富山大学大学院学則の一部改正について

(2) 富山大学大学院教育学研究科規則の一部改正について

(3) 富山大学大学院経済学研究科規則の一部改正について

(4) 富山大学大学院理工学研究科規則の一部改正について

学生生活委員会（3月18日）

（審議事項）

(1) 学生団体の書類送付について

(2) 学寮施設の改善に係るアンケート調査の結果について

(3) 平成14年度大学祭の日程について

(4) 学生団体の要求書について

入学試験運営委員会（3月18日）

（審議事項）

(1) 入学者選抜検査の実施に関する申合せについて

生涯学習教育研究センター運営委員会（3月29日）

（審議事項）

(1) 次期センター長候補者の選考について

(2) 次期副センター長候補者の選考について

学

事

平成14年度入学者選抜個別学力検査（一般選抜（後期日程））を実施

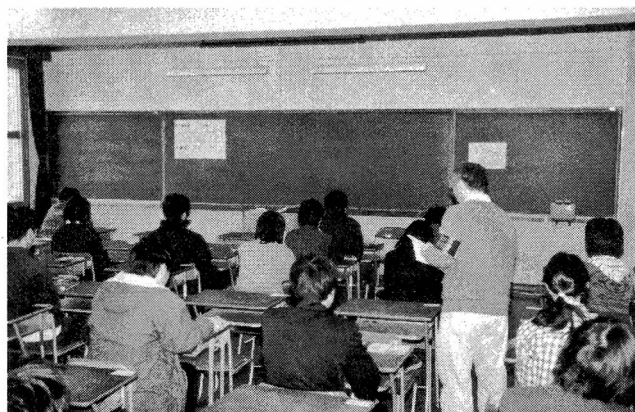
一般選抜等の合格発表も終了

平成14年度入学者選抜個別学力検査（一般選抜（前期日程）及び専門高校・総合学科卒業生選抜）の合格発表が、3月7日（水）午後1時から特設掲示板とホームページにおいて行われ、1,006人に合格通知が送付されました。

また、3月12日（火）には、一般選抜（後期日程）の学力検査等が各学部検査場において実施され、志願者2,948人のうち1,630人が受験（受験率55%）しました。合格発表は3月21日（木）午後1時から特設掲示板とホームページにおいて行われ、432人に合格通知が送付されました。

合格者の入学手続きは、一般選抜（前期日程）及び専門高校・総合学科卒業生選抜が3月14日（木）・15日（金）に、一般選抜（後期日程）が3月27日（水）にそれぞれ行われ、入学手続き締め切り日において欠員を生じた学部・学科・課程では、28日以降に追加合格による欠員補充が実施されました。

なお、平成14年度の入学者選抜個別学力検査実施状況は巻末資料に掲載してあります。



△一般選抜（後期日程）で試験開始を待つ受験者（理学部）

大学院工学研究科（博士後期課程）及び大学院理工学研究科（博士後期課程）学位記授与式を挙行

3月18日（月）に学長室において、富山大学大学院工学研究科（博士後期課程）及び同理工学研究科（博士後期課程）学位記授与式が挙行されました。式には、修了認定者4人が出席し、瀧澤学長から博士の学位記が授与されました。



「富山県内国立大学の再編・統合の推進に関する合意書」に調印

3月26日（火）、富山医科薬科大学において、富山大学、富山医科薬科大学及び高岡短期大学の3大学長による富山県内国立大学の再編・統合に向けた協議開始の合意書の調印式が行われ、「富山県内国立大学の再編・統合の推進に関する合意書」及び「富山県内国立大学の再編・統合にかかわる基本的確認事項」に3学長が署名の

うえ学長印が押印されました。

今後は、平成15年度の文部科学省概算要求が締め切られる今年6月を目標に、新大学構想の基本案をまとめ、来年10月の新大学設立を目指すことになります。

なお、合意内容は下記のとおりです。

富山県内国立大学の再編・統合の推進に関する合意書

富山県内に設置されている国立大学3機関、すなわち富山大学、高岡短期大学及び富山医科薬科大学は、相互に特色を尊重しつつ、再編・統合を推進し、新しい大学の創設に向けて協議を行うことに合意する。

平成14年 3月26日

富山大学長

瀧澤 弘

高岡短期大学長

蛭山 昌一

富山医科薬科大学長

高久 晃

富山県内国立大学の再編・統合にかかわる基本的確認事項

1. 新しい大学の基本理念について

新しい大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化と人間社会の調和的発展に寄与する。

2. 教育研究においては、以下のことが重視されることが必要である。

- 1) 生命科学を中心に関連分野を融合した国際水準の大学院の新設
- 2) 質の高い教養教育とそのための責任ある実施体制の確立
- 3) 時代・社会の要請に応える人材の育成とそのための学部・大学院の編成
- 4) 地域産業との機能的連携、及び地域社会への知的サービスの提供

3. 1. 及び2. を達成するために、従来の制度・慣習にとらわれず、評価を重んじる管理運営体制を確立し、その下で次のような管理運営を基本とする。

- 1) 教育研究のあり方と社会的貢献に応じた教職員の配置

- 2) 教授, 助教授, 講師, 助手などの教員の構成の適正化
- 3) 教育・研究・社会的貢献等に対する適切な評価
- 4) 評価に応じた人的, 物的資源の配分
- 5) 全教員に対する任期制の採用
- 6) 評価に応じた給与体系の構築

平成14年 3月26日

富山大学長
瀧澤 弘

高岡短期大学長
蠟山 昌一

富山医科薬科大学長
高久 晃

再 編 ・ 統 合⑤

本学学内広報紙「富大速報」第7号に標記の記事が次のとおり掲載されました。

なお、「富大速報」第8号に「再編・統合⑥」が掲載されましたが、その内容は前出『富山県内国立大学の再編・統合の推進に関する合意書』に調印と同様のため、省略させていただきます。

○富大速報第7号 『再編・統合⑤』

富山県内国立大学の再編・統合に係る懇談会報告

本年1月から7回にわたり県内3機関の再編統合に向けて協議を開始するための懇談会が富山大学, 富山医科薬科大学, 高岡短期大学の3機関の学長, 副学長等が出席して富山医科薬科大学で開催されました。この懇談会は再編統合方針を機関決定していない富山医科薬科大学の要望により開かれたものです。以下に概要を報告します。

○第1回 平成14年1月8日(火)

議事に先立ち, 高久(富山医科薬科大)学長から挨拶があり, 続いて, 小林(富山医科薬科大学)副学長が議長となり, (フリートーキングで)次のとおり懇談会が進められた。

富山医科薬科大学から, 「富山県内国立大学の再編・統合にかかわる基本的要望事項」及び「富山県内国立大学の再編・統合の推進に関する合意書(案)」が提示され, これを基に事項ごとに種々意見交換が行われ, 次回は本懇談会における意見を参考にさらにブラッシュアップしたもので協議することとなった。また, 各大学長等から再編・統合に関する各大学の現状説明があった。

○第2回 平成14年1月15日(火)

高久学長から, 前回懇談会で基本的要望事項として提案したが, その際出された意見等を取り入れ, 今回は「富山県内国立大学の再編・統合にかかわる基本的確認事項(案)」として提示したとの説明があった。次いで, 種々意見交換が行われたが, 要望事項として認識していたものが確認事項とするには急であり, 各大学へ持ち帰り検討することとなった。

○第3回 平成14年1月22日(火)

議事に先立ち、小林副学長から、今回は、拡大懇談会（富大：各学部長も出席、医薬大：評議員も出席）とすることの説明があり、次のとおり懇談会が進められた。1）1月21日に行われた大学院構想に関する文部科学省での説明結果についての報告及び質疑応答があった。2）次に、基本的確認事項（案）及び合意書（案）について、各大学からそれぞれの提出資料に基づき説明があり、その後、種々意見交換が行われた。基本的確認事項（案）の主たる論点は次のとおりであり、次回引き続き検討することとなった。①基本理念の本文中「・・生命科学、自然科学と人間文化科学を総合した・・」の人間文化科学の表現が適切かどうか ②教育研究の項目中「生命科学を中心に・・」は生命科学のみの表記でよいか ③管理運営の本文中「・・基本とする。」か「・・検討課題とする。」か ④管理運営の項目中「全教員に対する任期制の採用」は、全教員と表記するかどうか ⑤管理運営の項目中「・・管理運営面への参加」を削除するかどうか ⑥署名欄の大学の並び順についてどうするか

○第4回 平成14年1月28日（月）

基本的確認事項（案）及び合意書（案）について、資料に基づき種々意見交換が行われた。

基本的確認事項（案）の主たる論点は次のとおりであり、引き続き検討する事項については各大学に持ち帰り検討することとなった。

- ①基本理念の本文中「・・人間文化科学・・」は「・・人文社会科学・・」に修正する
- ②教育研究の項目中「生命科学・・」は定義を定め、引き続き検討する
- ③管理運営の本文中「・・基本とする。」か「・・検討課題とする。」については、引き続き検討する
- ④管理運営の項目中「全教員に対する任期制の採用」については、「教員」とするか「適切な」の文言を挿入するか等、引き続き検討する
- ⑤管理運営の項目中「・・管理運営面への参加」については、引き続き検討する
- ⑥署名欄の大学の並び順については、引き続き検討する

○第5回 平成14年2月19日（火）

1）1月末に文部科学省で行われたヒアリングの状況について、各大学の事務局から報告があった。

2）次いで、基本的確認事項（案）及び合意書（案）について、資料に基づき種々意見交換が行われた。この中で、基本的確認事項（案）における管理運営の項目中「・・評価に応じた管理運営面への参加」の文言の取扱いについて、管理運営の本文を「1. 及び2. を達成するために、従来の制度・慣習にとらわれず、新しい適切な管理運営体制を確立し、その下で次のような管理運営を基本とする。」に修正し、「・・評価に応じた管理運営面への参加」を削除する折衷案が提案され、各大学に持ち帰り検討することとなった。

○第6回 平成14年3月5日（火）

基本的確認事項（案）の管理運営の項目中「・・評価に応じた管理運営面への参加」の文言の取扱いを中心に種々意見交換が行われ、新たに修正案も含めた5案が提示された。この5案について協議した結果、管理運営の本文を「1. 及び2. を達成するために、従来の制度・慣習にとらわれず、評価を重んじる管理運営体制を確立し、その下で次のような管理運営を基本とする。」とし、「管理運営面への参加」の文言を削除する案（第2案）を各大学に持ち帰り検討することとなった。

なお、任期制の事項については、「教員」とするか「適切な」の文言を挿入するか等の結論は持ち越された。

○第7回 平成14年3月19日（火）

各大学から3月5日に確認された案（第2案）の検討結果についてそれぞれ報告があり、その中で一部修正意見が提示された。これらの修正意見等について種々意見交換が行われた結果、基本的確認事項（案）及び合意書（案）の文面は修正しないで、議事録に ①基本的確認事項に掲げる事項の具体化については、早急に

検討する。 ②任期制については、tenureを含めた幅広い適切な制度を検討する。 と記載することを確認し、「富山県内国立大学の再編・統合にかかわる基本的確認事項（案）」及び「富山県内国立大学の再編・統合の推進に関する合意書（案）」は了承された。

以 上

平成 14 年度内地研究員派遣者の決定

所 属	職 名	氏 名	受入機関	研 究 題 目	派遣期間
工 学 部	助 手	笹 木 亮	東京大学大学院新領域創成科学研究科	多芯光ファイバブロック自動組立の研究	14. 5. 1 ～15. 2. 28

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
採用	14. 3. 1	竹苗吾希子		事務補佐員（経理部主計課）（～14. 3. 31.）
辞職	14. 3. 31	坂田 達夫	事務局長	辞職
	"	武本 光雄	経理部契約室契約第二係主任	"
	"	津島 康二	文部科学技官（施設課）	"
	"	林 成剛	経理部契約室	"（独立行政法人国立少年自然の家国立立山少年自然の家へ）
	"	前川 要	教授 人文学部	"
	"	伊藤 司	助教授 経済学部	"
	"	石田 眞得	助教授 経済学部	"
	"	近藤 康之	助教授 経済学部	"
	"	坂本 雅士	講師 経済学部	"
	"	成田 欣弥	助手 理学部	"
	"	佐竹 信一	講師 工学部	"
	"	福井 洋美	教諭 教育学部附属養護学校	"
	"	宮崎 新悟	教諭 教育学部附属小学校	"
	"	鎌仲 徹也	教諭 教育学部附属中学校	"
	"	浦上 紀子	教諭 教育学部附属中学校	"
	"	廣安 敏美	教諭 教育学部附属養護学校	"
	"	平野 道子	教諭 教育学部附属養護学校	"
	"	七澤 邦彦	教諭 教育学部附属養護学校	"
	"	澤田 剛	教諭 教育学部附属養護学校	"
	"	中田 良子	教諭 教育学部附属幼稚園	"
退職	14. 3. 1	竹苗吾希子	文部科学事務官（経理部主計課）	平成14年2月28日限り任期満了により退職
	14. 3. 14	松井 輝代	臨時用務員（教育学部炊婦）	平成14年3月13日限り退職
	"	堰免 芳子	臨時用務員（教育学部炊婦）	"
	"	仲谷千鶴子	臨時用務員（教育学部炊婦）	"
	"	藤井 香	臨時用務員（教育学部炊婦）	"
	14. 3. 21	菅原 香	教諭（教育学部附属養護学校）	平成14年3月20日限り任期満了により退職
	14. 3. 31	梅村智恵子	教授 人文学部	定年退職
	"	渡邊 洋	教授 人文学部	"
	"	手塚 昌郷	教授 教育学部	"
	"	山下 三郎	教授 教育学部	"
	"	穴山 彊	教授 教育学部	"
	"	宗 孝文	教授 教育学部	"
	"	田中 祥子	教授 経済学部	"
	"	山本 浩司	教授 理学部	"
	"	櫻井 醇兒	教授 理学部	"
	"	杉本 益規	教授 工学部	"
	"	井上 正美	教授 工学部	"
	"	佐治 重興	教授 工学部	"
	"	吉川 和男	教授 工学部	"
	"	中村 剛	教授 保健管理センター	"
	"	林 征紀	総務部人事課専門員	"
	"	横山 正弘	総務部企画室専門職員	"
	"	宮越 謙三	学生部留学生課専門職員	"
	"	滋野 康雄	附属図書館情報管理課図書館専門員	"
	"	山田 知訓	経済学部教務係長	"
	14. 3. 31	中三川眞知子	事務補佐員（総務部総務課）	平成14年3月30日限り退職
	"	五十嵐仁子	事務補佐員（総務部総務課）	"
	"	三浦みより	事務補佐員（総務部研究協力課）	"
	"	前田 洋美	事務補佐員（総務部研究協力課）	"
	"	浅畑美香子	事務補佐員（総務部研究協力課）	"
"	榎 明美	事務補佐員（経理部経理課）	"	

	"	西野 英子	事務補佐員 (学生部学生課)	"
	"	横江 厚子	事務補佐員 (学生部学生課)	"
	"	増田 信子	事務補佐員 (学生部学生課)	"
	"	太田 昭子	事務補佐員 (学生部学生課)	"
	"	田島 順子	事務補佐員 (学生部厚生課)	"
	"	高瀬久美子	事務補佐員 (学生部入試課)	"
	"	山ノ下久美子	事務補佐員 (学生部留学生課)	"
	"	花田 博子	事務補佐員 (施設課)	"
	"	藤野 敏子	事務補佐員 (工学部)	"
	"	柿谷紀代子	事務補佐員 (工学部)	"
育児休業	14. 3. 1	烏海衣美子	文部科学事務官 (経理部主計課)	職務復帰
	14. 3. 21	高島 佳江	教諭 教育学部附属養護学校	"
職名変更	14. 3. 1	山端 憲子	看護婦 (保健管理センター)	看護師 (保健管理センター)
	"	角間 純子	看護婦 (保健管理センター)	" "

学 内 諸 報

留学生センター外国人留学生日本語研修コース (第5期) 修了式を開催

留学生センター外国人留学生日本語研修コース(第5期)の修了式が3月5日(火)事務局大会議室で開催され、大使館推薦の教員研修生1名、今期から本学で新しく受け入れた日韓共同理工系学部留学生4名及び学内措置でコースを受講した研究生4名計9名が出席しました。

式では、小島 満留学生センター長から留学生一人一人に修了証書が授与され、式辞が述べられた後、瀧澤学長から「自分の留学体験を振り返ってみると、よい友人もでき、大変貴重な機会であったと思っています。皆さんもよい経験になるよう、頑張ってください。」と祝辞があり、これに対して、留学生代表として、サンボホン・レイアさん(フィリピン)及び金 雄さん(韓国)からそれぞれ「来日した時は全然日本語が話せなかったが、今はかなりわかるようになってよかった」「厳しいコースだったが、これから日本での留学生生活を送っていく自信ができた」と謝辞がありました。

また、修了式終了後には学長、副学長、留学生センター長、工学部長、事務局長及び指導教官や関係教職員と留学生が記念撮影を行いました。

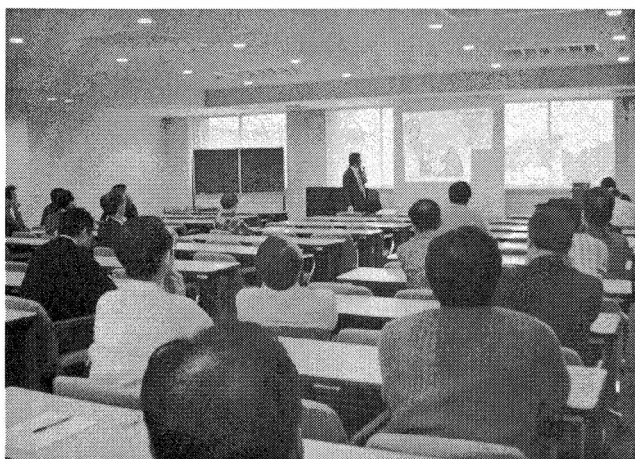


経済学部でファカルティ・ディベロップメント 講演会を開催

経済学部ファカルティ・ディベロップメント(FD)講演会が、3月5日(火)経済学部会議室で開催されました。

講演会では、池田輝政 名古屋大学高等教育研究センター教授を講師に招き、「今後のFD活動の組織的取り組みについて」をテーマに行われ、教職員約40名が出席しました。

経済学部では、今回の講演を通じてFDの役割と意義が認識され、教員の教育能力開発による学部教育の改善・充実につながることを期待されます。



平成13年度永年勤続者表彰及び退職者を囲む 懇談会を開催

平成13年度永年勤続者表彰及び退職者を囲む懇談会が3月27日（水）午後4時から事務局大会議室において開催されました。

初めに、文部科学省永年勤続者表彰が行われ、瀧澤学長から、坂田達夫事務局長に表彰状と記念品が授与されました。続いて瀧澤学長から、退職者一人一人に記念品の贈呈が行われた後、退職者の方々に対して、永年にわたり文部科学省機関並びに本学に精励されたことについて深く感謝する旨の謝辞がありました。

これに対して、退職予定者を代表して中村 剛 保健管理センター教授から答辞があり、式を終了しました。

引き続き、記念撮影が行われた後、会場を小会議室に移し退職者を囲んで懇親会が催され、和やかな雰囲気の中、古き良き思い出に話が弾んでいました。

なお、退職者の方々は次のとおりです。

	事務局長	坂田 達夫
総務部	専門員	林 征紀
"	専門職員	横山 正弘
学生部	"	宮越 謙三
附属図書館	専門員	滋野 康雄
人文学部	教授	梅村智恵子
"	"	渡邊 洋
教育学部	"	穴山 彊
"	"	宗 孝文
"	"	手塚 昌郷

教育学部	"	山下 三郎
経済学部	"	田中 祥子
"	教務係長	山田 知訓
理学部	教授	櫻井 醇兒
"	"	山本 浩司
工学部	"	井上 正美
"	"	佐治 重興
"	"	杉本 益規
"	"	吉川 和男
保健管理センター	"	中村 剛
元経理部	収入係長	湊 馨
元学生部	主任	坂東 康子
元附属図書館	情報サービス係長	吉田 恵吉



退官記念最終講義の実施

本年3月末をもって退官される工学部教授の最終講義が行われ、多数の学生、教職員、OBが出席し、終始熱心に聴講していました。



△工学部 杉本 益規 教授

日 時 3月8日（金）14:00～

場 所 工学部大会議室

題 目 粉・粒に魅せられて40余年

－粉粒体の偏析挙動とこれを利用した複合
微細造粒粒子生成プロセスの開発－



△工学部 佐治 重興 教授

日 時 3月15日（金）14:00～

場 所 工学部大会議室

題 目 私の大学人生

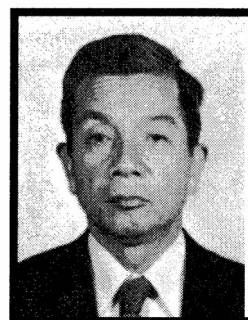
訃 報

◎ 廣岡脩二 本学名誉教授（元工学部教授）がご逝去されました。

廣岡脩二 本学名誉教授（元工学部教授）には、平成14年3月22日に逝去されましたことをお知らせします。

享年81歳。

ここにご生前のご功績とお人柄を偲び、心から哀悼の意を表します。



海 外 渡 航 者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡航先国	目 的	期 間
外国出張	経済学部	教授	澤 井 啓	マ レ ー シ ア	海外アンケート調査のFollow up interviewによる海外調査	14. 3. 3 } 14. 3. 8
	工 学 部	助教授	山 口 昌 樹	ア メ リ カ 合 衆 国	International and American Association for Dental Researchに出席	14. 3. 3 } 14. 3. 11
	教育学部	助教授	小 川 亮	ア メ リ カ 合 衆 国	米国ケンタッキー州における情報教育カリキュラムの調査・研究	14. 3. 5 } 14. 3. 14
	水素同位体科学研究センター	教授	松 山 政 夫	ド イ ツ	トリチウム測定及び研究打合せ	14. 3. 9 } 14. 3. 21
	理 学 部	助教授	藤 浩 明	フランス, 連合王国	海底磁気観測所の試験観測についての研究打ち合わせ	14. 3. 10 } 14. 3. 17
	極東地域研究センター	教授	酒 井 富 夫	韓 国	学術ネットワーク形成のための基礎調査	14. 3. 14 } 14. 3. 16
	理 学 部	教授	池 田 榮 雄	フ ラ ン ス	国際研究集会「Reaction-diffusion system in biology: Fronts and Interfaces」に出席, 研究発表	14. 3. 15 } 14. 3. 24
	経済学部	助教授	秋 葉 悦 子	イ タ リ ア	生命科学技術に関する研究	14. 3. 31 } 14. 5. 31
海外研修	経済学部	教授	澤 井 啓	連合王国, オーストリア	仲裁人教育の研究	14. 3. 16 } 14. 3. 31
	人文学部	教授	小 川 洋	ドイツ, チェコ, ハンガリー, オーストリア	資料収集	14. 3. 17 } 14. 4. 8
	経済学部	助教授	岸 本 壽 生	中 国	中国上海地域におけるマルチナショナルリズムの現地調査と資料収集	14. 3. 17 } 14. 3. 24
	人文学部	助教授	村 井 文 夫	フ ラ ン ス	カゾットとメーストルのコントロールヴォルションに関する調査	14. 3. 25 } 14. 4. 11
	経済学部	助教授	古 川 勝	タ イ	企業の情報化及び起業に関する調査と資料収集	14. 3. 25 } 14. 4. 9
	人文学部	助教授	青 木 恭 子	ロ シ ア	帝政ロシアの社会と文化に関する研究資料収集	14. 3. 25 } 14. 4. 11
	教育学部	助教授	後 藤 敏 伸	中 国	資料収集	14. 3. 27 } 14. 3. 30
	人文学部	教授	鈴 木 孝 志	チ ェ コ	東欧圏における英文学研究の現状調査	14. 3. 30 } 14. 4. 12

表

彰

佐貫助教授が日本金属学会学術功労賞を受賞

3月28日(木), 佐貫須美子工学部助教授が学術事業の推進に多年にわたり貢献したとして, 「日本金属学会学術功労賞」を受賞しました。

佐貫助教授は工学部物質生命システム工学科・材料工学講座所属。専門は材料化学。



主 要 行 事

本 部

- 3月1日 再編・統合検討委員会
入学試験実施委員会
- 4日 事務局連絡会
組織運営体制検討委員会
留学生センター運営委員会
生涯学習教育研究センター運営委員会
外国人留学生日本語研修コース修了式
- 7日 平成14年度富山大学入学者選抜学力検査前期（一般選抜（前期日程）及び専門高校・総合学科卒業生選抜）合格発表
- 11日 事務局連絡会
北陸地区国立大学長懇談会（於：金沢大学）
国立大学法人化に関する情報交換会
- 12日 平成14年度富山大学入学者選抜学力検査前期（一般選抜（後期日程））合格発表
運営会議
- 14日 施設整備委員会
大学教育委員会
- 15日 部局長会議
評議会（臨時）
大学院委員会
- 18日 事務局連絡会
学生生活委員会
富山大学大学院工学研究科（博士後期課程）
及び大学院理工学研究科（博士後期課程）
学位記授与式
入学試験実施委員会
- 19日 事務協議会
- 20日 評議会
- 21日 平成14年度富山大学入学者選抜学力検査前期（一般選抜（後期日程））合格発表
- 22日 放射性同位元素総合実験室運営委員会
- 25日 平成13年度富山大学学位記授与式（於：富山市芸術文化ホール）
低温液化室運営委員会（持ち回り）
- 26日 「富山県内国立大学の再編・統合の推進に関する合意書」調印式（於：富山医科薬科大学）

- 27日 永年勤続者表彰及び退職者との懇談会
- 29日 生涯学習教育研究センター運営委員会
- 30日 臨時東海・北陸地区国立大学学長会議（於：名古屋マリオネットアソシアホテル）

人 文 学 部

- 3月1日 学部教務委員会
- 4日 学部将来計画委員会
学部国際交流委員会（持ち回り）
- 6日 人文科学研究科委員会
教授会（人事）
教授会
人事委員会
- 12日 教授会
学部将来計画委員会
- 13日 学部教務委員会
人事委員会
- 15日 時間割担当者会議
- 18日 学部自己点検評価委員会
学部予算委員会
- 20日 学部国際交流委員会
人文科学研究科委員会
教授会（人事）
教授会
- 25日 学部自己点検評価委員会
- 28日 学部将来計画委員会

教 育 学 部

- 3月1日 附属養護学校評議会
- 5日 学部入学試験委員会
視覚障害者受入準備委員会
- 6日 学部教務委員会
研究科小委員会
研究科委員会
教授会
- 8日 附属養護学校卒業式
- 13日 学部予算委員会
教授会

人事教授会	学部教務委員会
14日 附属幼稚園修了式	13日 人事教授会
15日 附属小学校卒業式	研究科委員会
18日 附属中学校卒業式	教授会
附属幼稚園終業式	学部国際交流委員会（持ち回り）
19日 附属小学校修了式	図書等委員会（持ち回り）
学部拡大将来計画委員会	14日 学部学生生活委員会
20日 附属中学校及び附属養護学校修了式	図書等委員会
学部入学試験委員会	就職指導委員会
研究科委員会	学部教務委員会
教授会	学部入学試験委員会
人事教授会	学部自己点検評価委員会
22日 学部教務委員会	情報処理委員会
学部入学試験委員会	将来構想等検討委員会
学部学生生活委員会	生涯学習・広報委員会
学部国際交流委員会	学部国際交流委員会
26日 講演会	15日 研究科委員会小委員会（持ち回り）
演題：身体に障害を有する学生（特に視覚 に障害を有する学生）の就学、学生 生活の支援のあり方について	18日 学部教務委員会
講師：黒川哲字（筑波技術短期大学教授）	自然観察実習センター運営委員会（持ち回 り）
	19日 将来構想等検討委員会
	20日 学部入学試験委員会
	教授会
	研究科委員会
	人事基本問題検討委員会
	25日 経済学部・大学院経済学研究科学学位記授与 式
	26日 学部総務委員会

経 済 学 部

3月1日 私費外国人留学生特別選抜選考委員会
学部教務委員会（持ち回り）
4日 学部自己点検評価委員会
5日 生涯学習・広報委員会
講演会
演題：今後のFD（ファカルティ・ディベ ロップメント）の組織的取り組みに ついて
講師：池田輝政（名古屋大学高等教育研究 センター教授）
6日 学部入学試験委員会
教授会
研究科委員会
財務委員会
7日 学部学生生活委員会
学部総務委員会
8日 学部入学試験委員会
11日 研究科委員会小委員会
12日 入学者選抜学力検査（後期日程）
人事基本問題検討委員会

理 学 部

3月1日 学部教務委員会
5日 理学部将来計画策定ワーキンググループ会 議
学科長会議
6日 大学院理工学研究科博士前期課程理学部会 教授会
人事教授会
大学院理工学研究科博士後期課程部会
8日 古紙回収
11日 大学院理工学研究科博士前期課程理学部会 教育委員会
13日 大学院理工学研究科博士前期課程理学部会 教授会

- 人事教授会
大学院理工学研究科博士前期課程理学部会
専任教授会
- 18日 古紙回収
出前講義（富山西高等学校）
学科長会議
- 20日 大学院理工学研究科博士前期課程理学部会
教授会
人事教授会
大学院理工学研究科博士後期課程部会
- 15日 先端技術講演会
演題；半導体リソグラフィ技術と材料動
向
講師；柳本 暁（地域共同研究センター客
員教授，日産化学工業（株）理事）
- 18日 特別講義
演題；取得特許の維持・権利侵害実施許諾
について
講師；長谷川 芳樹（地域共同研究センター
客員教授，創英国際特許法律事務所
所長）

工 学 部

- 3月4日 学部運営委員会
教務委員会
学部学生生活委員会
- 5日 学部合格者検討委員会
- 6日 教授会
専任教授会
理工学研究科博士前期課程工学部会
工学研究科博士後期課程委員会
理工学研究科博士後期課程部会
- 7日 留学生懇談会
- 11日 教授会
- 12日 工学部自己点検評価委員会
- 18日 学部学生生活委員会
- 19日 学部運営委員会
工学部将来計画委員会
教務委員会
- 20日 教授会
専任教授会
理工学研究科博士前期課程工学部会
理工学研究科博士後期課程部会
学部合格者検討委員会
- 26日 工学部自己点検評価委員会

総合情報処理センター

- 3月15日 運営委員会

水素同位体科学研究センター

- 3月25日 運営委員会（持ち回り）

機器分析センター

- 3月15日 運営委員会（持ち回り）

極東地域研究センター

- 3月18日 運営委員会（持ち回り）

保健管理センター

- 3月6日 自己点検評価委員会

附 属 図 書 館

- 3月27日 附属図書館運営委員会

地域共同研究センター

- 3月7日 運営委員会
11日～13日 先端技術研修（情報処理コース）



平成14年度富山大学入学者選抜試験実施状況総括表

学部	学 科 (課 程) 等	募 集 人 員 a (人)	志 願 者 数		受 験 者 数		合 格 者 数 (人)		入学者 (人)	入 学 者 内 訳						備 考
			b (人)	(b/a倍)	c (人)	(c/a倍)	うち追加 合格者数	男子		女子	県内	県外	現役	浪人		
人文学部	人 文 学 科	60	396	(6.6)	307	(5.1)	70	0	62	23	39	11	51	53	9	
	国 際 文 化 学 科	50	300	(6.0)	218	(4.4)	63	3	51	14	37	11	40	45	6	
	言 語 文 化 学 科	75	551	(7.3)	381	(5.1)	85	0	76	9	67	24	52	70	6	
	計	185	1,247	(6.7)	906	(4.9)	218	3	189	46	143	46	143	168	21	
教育学部	学校教 学 校 教 育 系	23	104	(4.5)	70	(3.0)	27	0	26	4	22	16	10	21	5	
	育教員 障 害 児 教 育 系	7	56	(8.0)	40	(5.7)	7	0	7	0	7	2	5	5	2	
	養成課 言 語 ・ 社 会 系	25	190	(7.6)	135	(5.4)	30	2	27	15	12	10	17	23	4	
	程 自 然 ・ 生 活 系	25	138	(5.5)	98	(3.9)	28	0	28	14	14	10	18	23	5	
	芸術 ・ 体 育 系	20	185	(9.3)	154	(7.7)	25	0	25	6	19	10	15	20	5	
	生涯教 発 達 臨 床 専 攻	10	118	(11.8)	109	(10.9)	12	0	11	3	8	2	9	7	4	
	育課程 生 涯 ス ポ ー ツ 専 攻	10	230	(23.0)	166	(16.6)	10	0	10	6	4	5	5	10	0	
	人間 人 間 環 境 専 攻	20	60	(3.0)	33	(1.7)	23	1	20	2	18	5	15	17	3	
	情報教 教 育 情 報 シ ス テ ム 専 攻	20	42	(2.1)	33	(1.7)	22	0	22	7	15	15	7	20	2	
	育課程 マ ル チ メ デ ィ ア 芸 術 専 攻	10	30	(3.0)	22	(2.2)	11	0	11	4	7	4	7	11	0	
	計	170	1,153	(6.8)	860	(5.1)	195	3	187	61	126	79	108	157	30	
経済学部	経 済 学 科	135	628	(4.7)	436	(3.2)	165	0	142	91	51	50	92	118	24	
	昼間主 経 営 学 科	115	482	(4.2)	374	(3.3)	140	0	119	68	51	38	81	100	19	
	コース 経 営 法 学 科	95	629	(6.6)	428	(4.5)	118	2	95	51	44	28	67	79	16	
		小 計	345	1,739	(5.0)	1,238	(3.6)	423	2	356	210	146	116	240	297	59
	経 済 学 科	20	187	(9.4)	120	(6.0)	37	0	23	14	9	14	9	15	8	
	夜間主 経 営 学 科	20	106	(5.3)	79	(4.0)	33	0	22	12	10	16	6	13	9	
	コース 経 営 法 学 科	20	112	(5.6)	76	(3.8)	36	0	23	13	10	17	6	17	6	
	小 計	60	405	(6.8)	275	(4.6)	106	0	68	39	29	47	21	45	23	
	計	405	2,144	(5.3)	1,513	(3.7)	529	2	424	249	175	163	261	342	82	
理学部	数 学 学 科	50	200	(4.0)	192	(3.8)	60	4	50	39	11	11	39	42	8	
	物 理 学 科	40	130	(3.3)	105	(2.6)	47	0	42	37	5	6	36	36	6	
	化 学 学 科	35	114	(3.3)	91	(2.6)	45	3	38	28	10	14	24	30	8	
	生 物 学 科	35	150	(4.3)	126	(3.6)	44	0	40	19	21	9	31	27	13	
	地 球 科 学 科	40	138	(3.5)	134	(3.4)	47	1	40	30	10	0	40	28	12	
	生 物 圏 環 境 科 学 科	30	97	(3.2)	64	(2.1)	36	0	33	17	16	9	24	27	6	
		計	230	829	(3.6)	712	(3.1)	279	8	243	170	73	49	194	190	53
工学部	電 気 電 子 シ ス テ ム 工 学 科	88	297	(3.4)	292	(3.3)	114	5	92	88	4	27	65	83	9	
	知 能 情 報 工 学 科	78	234	(3.0)	228	(2.9)	93	0	83	76	7	29	54	71	12	
	機 械 知 能 シ ス テ ム 工 学 科	88	258	(2.9)	253	(2.9)	114	2	103	100	3	37	66	88	15	
	物 質 生 命 シ ス テ ム 工 学 科	151	554	(3.7)	465	(3.1)	192	0	164	118	46	51	113	132	32	
		計	405	1,343	(3.3)	1,238	(3.1)	513	7	442	382	60	144	298	374	68
	合 計	1,395	6,716	(4.8)	5,229	(3.7)	1,734	23	1,485	908	577	481	1,004	1,231	254	
(参考)平成13年度		1,395	5,936	(4.3)	4,687	(3.4)	1,738	33	1,495	925	570	477	1,018	1,218	277	
増 減		0	780	(0.56)	542	(0.38)	△4	△10	△10	△17	7	4	△14	13	△23	

(注) 上記の数は、推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜、専門高校卒業生選抜の数を含み、外国人留学生の数は含まない。

平成14年3月卒業生数

◎学 部

学 部	学 科(課程)	入 学 年 度							計	
		12	11	10	9	8	7	6		
人文学部	人文学科	3		71 (1)	7	1	1		83 (1)	
	国際文化学科	2		49 (3)	6	1			58 (3)	
	言語文化学科	2		50 (1)	5	1			58 (1)	
	計	7		170 (5)	18	3	1		199 (5)	
教育学部	学校教育教員養成課程			136 (1)	4				140 (1)	
	総合教育課程			39					39	
	情報教育課程							1	1	
	計			175 (1)	4			1	180 (1)	
経済学部	昼間	経済学科	2		113	15 (1)	2			132 (1)
		経営学科	3		114 (6)	5	3			125 (6)
	主コ ース	経営法学科	1		91 (2)	6	1			99 (2)
		小 計	6		318 (8)	26 (1)	6			356 (9)
	夜間	経済学科			16					16
		主コ	経営学科	2		17	1			20
		ース	経営法学科	1		19	2		1	23
		小 計	3		52	3			1	59
		計	9		370 (8)	29 (1)	6		1	415 (9)
	理学部	数 学 科		1	44	4	3			52
物理学科		1		30	1	3	1	3	39	
化 学 科		3		31	2	1			37	
生物学科		4		37	7		1		49	
地球科学科		3		27	6				36	
生物圏環境科学科		1		26	2	2			31	
計		12	1	195	22	9	2	3	244	
工学部	電気電子システム工学科	6	1	60	6				73	
	知能情報工学科	7		64 (1)	9				80 (1)	
	機械知能システム工学科	5 (1)	1	62	16				84 (1)	
	物質生命システム工学科	12		113	27				152	
	電子情報工学科					2	4		6	
	機械システム工学科			※ 1		9	1		11	
	物質工学科						1		1	
	化学生物工学科					11	1		12	
	計	30 (1)	2	300 (1)	58	22	7		419 (2)	
合 計	58 (1)	3	1,210 (15)	131 (1)	40	10	5	1,457 (17)		

(注) 1. ()内は、外国人留学生で内数。

2. 入学年度の平成12、11年度卒業生及び10年度の1名(※)の卒業生は、3年次編入学者。

平成14年3月修了者数

◎大学院

学 部	専 攻	入 学 年 度			計	
		12	11	10		
人文科学研究科	文化構造研究専攻	8(2)			8(2)	
	地域文化研究専攻	3		1	4	
	計	11(2)		1	12(2)	
教育学研究科	学校教育専攻	8			8	
	教科教育専攻	22	1		23	
	計	30	1		31	
経済学研究科	地域・経済政策専攻	7(4)	1		8(4)	
	企業経営専攻	9(4)			9(4)	
	計	16(8)	1		17(8)	
理工学研究科	前	数学専攻	9			9
		物理学専攻	11(1)			11(1)
		化学専攻	17			17
		生物学専攻	17(1)			17(1)
		地球科学専攻	7			7
		生物圏環境科学専攻	3			3
		小 計	64(2)			64(2)
	期	電子情報工学専攻	70(6)			70(6)
		機械システム工学専攻	33(2)	1		34(2)
		物質工学専攻	29	1		30
		化学生物工学専攻	26(1)		1	27(1)
		小 計	158(9)	2	1	161(9)
		計	222(11)	2	1	225(11)
		後	システム科学専攻		2(2)	
	物質科学専攻			4(2)		4(2)
	エネルギー科学専攻			3(1)	1	4(1)
	生命環境科学専攻			4(2)		4(2)
	計			13(7)	1	14(7)
	計	222(11)	15(7)	2	239(18)	
	合 計		279(21)	17(7)	3	299(28)

(注) 1. ()内は、外国人留学生で内数

平成13年度大学院研究科修了者一覧

【人文科学研究科(修士課程)】

専攻	氏名	論文題目
文化構造研究	ペリーモワ タチャーナ	ロシア人中・上級日本語学習者における「テイル」の用法の修得に関する研究
	沖林洋平	精神物理学的関数における記憶イメージと知覚の関係
	村由美子	音楽療法の効果に関する心理学的研究 －精神科デイケア参加の精神疾患者を対象として－
	結城博実	性格特性が喚起する顔イメージの構造について －相貌特徴と性格の関連性の検討－
	荒木慎也	北陸における古墳時代開始期の土器様式変革過程 ～計量的分析を中心として～
	砂田普司	中部高地における古墳時代黒色土器の出現とその背景
	高野まき	宮沢賢治の寓話
	エルマコーヴァ ナターリア	ロシア人から見た明治日本
地域文化研究	大口浩司	中世京都近郊における官衙田
	松井智之	室町時代における侍所の京都支配
	朴木聖乃	リンカーン司教ヒューにみる聖性と俗性
	井上佐富美	A Study of Relative Constructions in the Canterbury Tales

【教育学研究科(修士課程)】

専攻	専修	氏名	論文題目
学校教育	学校教育	加藤恵子	乳幼児を持つ母親の育児不安を軽減するための子育て支援のあり方について
		金子智子	児童・生徒における自己の価値づけは学校適応度ごとでどう異なるか
		管田貴子	幼児の多文化教育 －日本における現状と課題についての考察－
		竹田季代美	子どもの「自己指導」を支える教師の指導について －1950年代後半における宮坂哲文の生活指導論の考察から－
		西守哲男	小学校段階における「情報活用の実践力」育成を目指したカリキュラム開発と評価に関する研究 －小学校第3学年各教科における取り組み－
		原田郁美	生活科から理科への連続・発展的な学習過程に関する一考察
		藤重直樹	総合カリキュラムの「総合的な学習の時間」に関する研究 －奈良プランの「総合」概念に着目して－
		山崎悟	高等学校におけるメディア・リテラシー教育の基礎研究
教科教育	国語教育	中尾仁美	国語科教育における学校図書館の研究
		濱田美由紀	「伝え合う力」の育成を目指した国語科教育 －「話すこと・聞くこと」を中心に－
		廣田崇志	中学校における新しい文法教育の研究
	数学教育	澤木潤一朗	高校生の数学に対する態度の実態 －各単元にみられる特徴－

数学教育	竹 田 秀 明	SSOR法に関する一考察
	横 井 一 美	1次元移流拡散方程式に対するGalerkin有限要素法とinf-supテストについて
理科教育	佐 野 光 代	分解性プラスチックの生分解性評価に関する研究
	堀 田 充	イメージの変容を促す理科教材の開発と活用方法 －電流回路のイメージについて－
	松 山 友 之	科学的リテラシーの育成を目指した理科の学習に関する研究 －中学校理科化学的領域の学習に関する実践を通して－
	横 田 めぐみ	吸収スペクトル自動測定装置の製作とその環境教育への応用
音楽教育	石 橋 妙 子	和太鼓を取り入れた音楽科教育の可能性について 研究演奏名：DONIZETTI Una Lacrina, VERDI Deh, pietoso, oh Addolorata, TOSTI Ridonami la calma
	坂 田 美沙都	主作品 小品集 副論文－読書困難者を支援するIT技術の現状と今後の方向
美術教育	関 口 信	ミケランジェロの壁画「天地創造」の研究 －人物像における階層的スケールの視点から－ 研究作品名：「海の環」
	西 田 歩	コラージュにおける素材と手法研究 自己の回想と前進
	渡 邊 陽 平	絵画表現における白の研究－明暗と濃淡の表現を通して－ 研究作品名：「Stand」
保健体育	小 川 耕 平	予備加温による Heat Shock Proteins (HSP) の誘導が及ぼす生理学的影響
	堀 田 信 博	子どもの体温調節能の現状と改善方法についての一考察 －子どものからだのよりよい発達をめざして－
技術教育	佐 藤 宏 隆	遠隔講義時における効果的な学習環境の構築について
	棚 田 英 治	普通教科「情報」における重要度の高い学習内容の抽出と単元カリキュラムの開発と実践
	廣 川 平	光学機械の精密感に関する研究
	森 本 篤 史	教員研修のための Web Based Training システムの開発と実践的評価
家庭教育	高 田 千 秋	家庭内における金銭感覚の育成と親子関係
	山 内 八千代	衣服の着心地を左右する湿潤感の評価とその応用

【経済学研究科（修士課程）】

専 攻	氏 名	論 文 題 目
地 域・経 済 政 策	長 森 貴 弘	地方公共団体への行政評価システム導入に係る検証
	奥 田 美 里	法人所得税制と資本コスト
	塚 原 節 子	在宅療養支援のための看護職連携システムに関する考察
	林 裕 一	電源の立地が地域経済に与えた影響に関する研究 (石川県羽咋郡志賀町及びその周辺地域における地域振興策を例として)
	王 松	瀋陽市における大気汚染問題と政策 －SO _x 抑制のためのバイオブリケット技術導入の効果
	朱 奕 男	経済改革開放下の郷鎮企業における環境汚染とその対策に関する分析と提言
	朱 俊 峰	中国吉林省におけるとうもろこし生産収益の規模間格差に関する実証的研究

企 業 経 営	蔣 曉 東	中国経済の発展と日系企業の役割 -大連市に進出した日系企業を中心として-
	岩 田 貴 宏	税効果の認識と測定
	坂 井 真由美	女性企業家の連携による相互進化型ビジネスモデルの構築 -戦略的女性企業家創出におけるサイバースペース上での可能性-
	白 川 恵	罪刑法定主義の実質化をめぐる若干の考察
	杉 森 鉄之助	日本企業の技術経営と消費者志向についての一考察
	西 岡 一 生	地方分権改革と税財源問題 -地方自治体の課税自主権に触れて-
	王 昕	日本の小売形態の発展についての考察
	THANDAR LAY	会計の多様性と調和化に関する研究 -会計基準の国際的調和化を中心として-
	唐 劍	日本の多国籍企業の中国市場参入に関する研究
劉 同 強	中国株式会社法における少数株主の保護	

【理工学研究科 (博士前期課程)】

専 攻	氏 名	論 文 題 目
数 学 専 攻	緒 方 毅	球体の2点で極をもつ複素グリーン関数について
	加 藤 篤 史	乗法的イデアル論の研究
	北 村 稔 之	Matrix type operators on martingales
	貴 堂 茂 樹	2階常微分方程式の振動理論
	栗 田 健 次	2次元離散力学系におけるカオス
	作 屋 将	ケルル環の研究
	田 中 聡 和	1階常微分方程式の振動理論
	辻 井 裕	例外型ホロノミー群 G_2 をもつ多様体について
	本 田 健 太 郎	Doob の収束定理について
物 理 学 専 攻	大 石 祐 一	Ti-Zr-Ni系準結晶の水素吸収と構造
	釜 石 孝 生	Coherent States と Squeezed States の構成法の比較
	桐 生 貞 義	Meron 解に対する Faddeev-Niemi 場
	中 町 秀 明	ダイオードレーザーによる近赤外分光学
	番 場 大 円	Yang-Mills方程式のInstanton解, Meron解および楕円解
	平 松 純 人	価数揺動系 $CeOs_2Si_2$ のOs置換効果
	水 落 徹	波長可変レーザーによる赤外分光学
	山 口 暁	アセトアミド分子のマイクロ波分光

	山 口 聡	リラクサー結晶P Z NのX線回折
	山 崎 和 也	コバルト酸リチウム (L i C o O 2) の構造研究
	孫 培 傑	高濃度近藤物質Ce (P d 1 - x C u x) 2 A 1 3の磁性の変化
化 学 専 攻	岩 木 洋 人	電極反応の周波数応答法による速度論的研究
	奥 島 聖 記	シクロトリペラトリレンを含むカプセル分子の合成と包接挙動
	喜 多 祐 貴	Cd (CN) 2 · GとN (CH 3) 4 [C d C u (CN) 4] · G包接化合物 (G : C 3 v型分子) の振動スペクトルと相転移
	佐 藤 智 紀	分子内Heck反応を用いたセンブラン骨格の新規な合成法の開発
	下 山 俊 行	ペルオキソバナジウム (V) 錯体の合成, 構造, 反応性
	鈴 木 咲 子	脂質-水系の赤外強度とモルフォロジー
	土 田 直 生	3-メチル-2, 5-ジヒドロ-1-ベンゾオキセピン骨格を有するカルボン酸類の合成研究
	直 江 俊 弥	非平面鞍型構造を持つサーキュレン類の合成と性質
	中 野 郁 美	担持モリブデン触媒によるメタンの脱水素縮合反応の研究
	西 川 久 信	近赤外色素を用いた巨大温度ジャンプによる非線型現象の研究
	藤 本 一 也	種々官能基をもつ配位子を配位したバナジウム (III) 錯体の合成, 構造, 性質
	前 田 貴 生	ジアセチレン及びピニレン架橋ポルフィリン四量体の合成と性質
	松 田 隆 史	フロピリジン類の合成と反応性に関する研究
	三重野 園 理	不均一系不斉修飾触媒によるプロキラル化合物のエナンチオ面区別水素化
	村 瀬 将 幸	P d (II) 触媒を用いる立体選択的な二置換テトラヒドロピラン誘導体の合成とポリサイクリックエーテル系天然物合成への応用
	森 一 峰	ジヘキシルピチオフェン環をスパーサーとする拡張共役系ポルフィリン金属錯体の合成と性質
	吉 田 勝 彦	β線誘起X線計測法によるNi基合金中のトリチウム分布に関する研究
生 物 学 専 攻	市 川 優	ゴマの花器官および花外蜜腺の形成に関わる遺伝子のクローニングと発現解析
	伊 東 平 裕	ネナシカズラの葉緑体遺伝子の発現制御に関する研究
	猪 股 章 裕	富山県下新川郡朝日町のフローラ
	荻 野 聖 代	日本産オオバコ属の核型と比較形態
	菊 地 実 記	軟骨魚類アカエイにおけるPACAPの体内発現分布に関する研究
	小 森 大 安	エゴツルクビオトシブミ (鞘翅目, オトシブミ科) の揺籃形成戦略と寄主植物選好性に関する比較生態学的研究
	佐 藤 謙 治	ハムシ亜科 (鞘翅目, ハムシ科) の後翅の相対変異に関する比較形態学的研究 -ヨモギハムシ属における後翅退化の一般的過程を中心として-
	佐 野 裕 司	カエル上皮細胞におけるイオン輸送に関する研究
	高 羽 優 算	チューリップ培養細胞から単離された gypsy-like レトロトランスポゾンに関する研究

	中 町 智 哉	キンギョにおけるオレキシンの機能解析
	中 村 大 樹	オオアオイトトンボ (トンボ目, アオイトトンボ科) オスの繁殖行動における視覚的解発刺激に関する実験行動学的研究
	早 川 伸 二	ルリオトシブミ属 (鞘翅目, オトシブミ科) の揺籃形成戦略と寄主植物選好性に関する比較生態学的研究
	福 田 真 也	ネナシカズラ葉緑体への tRNA 輸送に関する研究
	穂 積 裕 幸	ハムスター腺性下垂体におけるホルモン産生細胞の機能調節に関する研究
	三 浦 健 司	カイワレダイコンの抗菌性ペプチド、ラディシンの生化学的解析
	村 上 真 由	ネナシカズラ芽生えにおける寄生根分化と成長パターンの変化に関する研究
	馬 迎 新	魚類と両生類における内分泌攪乱化学物質のスクリーニング方法に関する研究
地球科学専攻	荒 木 佐和子	バイカル湖の湖底堆積物の古地磁気・岩石磁気の研究
	大 森 大 悟	氷の破壊に伴うAEおよび電磁氣的現象の観測
	小 山 沙由紀	海洋底コア堆積物の古地磁気・岩石磁気の研究—北西太平洋&オホーツク海ピストンコア—
	続 山 裕 樹	インピーダンス・スペクトロスコーピーによる岩石中の液相形態の研究
	中 埜 貴 元	地中レーダ探査の地球科学および考古学への応用
	本 間 潮	扇ノ山火山の地質と岩石
	山 口 重太郎	中生層の古地磁気・岩石磁気
生物圏環境科学専攻	北 裕一郎	断層帯周辺における地下水の化学組成及び同位体比
	中 野 啓 史	ウニ卵受精時の細胞内情報伝達機構の解析
	前 川 貴 裕	水中の微量フェノール類の簡易計測法の開発と応用に関する研究
電子情報工学専攻	浅 野 俊 雄	直流リンクコンデンサ電圧の不均衡補償機能を有する単相—三相変換装置に関する研究
	足 立 隆 之	風力発電システムにおける系統連系時の突入電流抑制に関する研究
	石 灰 功 一	静電アンテナを用いた雷放電観測
	板 尾 隆 昭	ビデオカメラを用いた雷放電分光計測システムの開発
	魚 谷 一 成	AlSbバッファ層を用いたSi(001)基盤上へのInSb薄膜のヘテロエピタキシャル成長
	大 坪 靖 一	ラット腹側被蓋野ニューロン活動に対するCARTおよびOREXINの作用
	大 西 淳 一	JPEG2000に対応した画質評価モデル
	奥 村 仁	SnO ₂ スパッタ膜の構造とガス検出特性
	角 本 英 俊	有機ELマトリクスパネルの試作と回路シミュレーションに関する研究
	笠 島 与史憲	視覚機能を有するロボットの試作
	笠 松 岳 史	顔平面を用いた表情認識に関する研究

桂 智 則	永久磁石形同期発電機を用いた風力発電の最大出力点制御に関する研究
神 谷 佳	極微小視角における色覚特性に関する研究—周辺視における色覚特性—
河 合 宏 文	全方位レンズを用いたステレオ画像からの3次元再構成に関する研究
河 原 吉 博	高純度パルスイオンビーム発生のための両極性パルス加速器の開発
川 村 武 志	カーボンチューブを用いた電界放出アレイに関する研究
川 元 康 治	ストレス条件下ラットのセロトニンおよびドーパミン代謝並びに摂食量に関する「みどりの香り」の作用
京 田 浩 之	浅水長波有限要素モデルを用いた雷電荷の流れ解析
木 村 直 樹	C i^{3+} をドーブした硫酸グリシンの強誘電特性
車 谷 健太郎	$\text{S i} (001)$ 基板上の $(\text{S i}_m\text{G e}_n)$ 短周期超格子バッファを用いた S i G e 混晶層のMBE成長
齊 藤 慎 司	Strong Proton acceleration during successive coalescence of filament currents in relativistic electron beam system
酒 井 敏 行	スパッタ膜のパターン形成用金属マスクの非線形熱変形解析
笹 井 信 英	対向ターゲット式スパッタ法による F e M n 薄膜の作製
佐 藤 竜 一	直接インクジェットプリント法を用いた有機EL素子の発光色制御に関する研究
澤 武 保	表面吸着子の時間分解和周波発生分光に対するコヒーレント光学効果の理論
塩 谷 将 希	プラズマフォーカス装置から発生するイオンビームの特性評価
篠 田 光 弘	微細線を用いたネマチック液晶分子の配向特性と規制力に関する研究
清 水 英 俊	ターボ復号の尤度情報更新に関する研究
杉 田 直 樹	$\text{G e} (001)$ 面上の I n と S b による表面再構成構造に関する研究
高 野 正 規	$\text{S i G e} / \text{S i} / \text{S i G e}$ 量子井戸構造における2次元電子ガスの電気的特性に関する研究
高 島 昭 雄	A model of heating of coronal loop footpoints
高 畑 洋 祐	弾性波動場のFD TD法解析と速度ポテンシャル表示に関する研究
滝 本 崇	二相交流磁気浮上形リニア誘導モータにおける推進力の解析
竹 内 亮 一	くま取り効果を利用した相数変換装置の特性解析に関する研究
武 田 尚 之	雪国の景観照明における演色効果に関する研究
竹 山 幸 治	ヒドラのバイオアッセイ系における多方向ミラー画像を用いた形状特徴量算出に関する研究
田 島 茂	ランタノイド系電子注入電極を用いた有機EL素子に関する研究
塚 田 将 門	BCJRアルゴリズムのインプリメントに関する研究
徳 和 里 沙	雪国における夜間都市景観照明とライトアップに関する研究
朽 藤 俊 志	ランドルト環を用いた濃霧中における色光の視認特性に関する研究

	富岡 忍	マイクロ波帯におけるネマチック液晶の誘電特性とデバイス特性に関する研究
	土居 弥寿彦	高純度パルスイオン源への応用を目的とした同軸プラズマガンの開発
	中瀬 友絵	フレーム品質とカメラワークを用いた動画像の品質評価
	中田 義人	J a v aによるオブジェクト指向に基づくシーケンス制御用言語の I L 言語へのコンパイラの作成
	中林 寛文	対向ターゲット式スパッタ法による T i O ₂ 膜の作製とその構造・特性
	中林 義憲	非定常信号解析における分析窓長に依存しない信号推定
	中村 吉延	アンモニウムロッセル塩の構造相転移に関する研究
	名畑 久典	明暗境界近傍の明るさ知覚に関する空間順応特性の研究
	西 健治	Two loops interaction due to solitary magnetic kink driven by colliding plasma flows in magnetic flux tubes
	長谷川 竜生	相関処理を用いた残響音場の逆問題におけるブラインド解法
	平田 論	窒素レーザーを用いたピンチプラズマのシャドウグラフ計測
	穂積 篤	聴覚情報が視覚情報に及ぼす影響に関する研究
	本田 聡	水滴電界計を用いた地上電界多点計測システムの開発
	前坪 洋介	プラズマガンをイオン源としたパルスイオンビーム発生装置の開発
	松田 晶詳	S r T i O ₃ /S r Oバッファ層を用いた S i (0 0 1) 基板上への B i 系超伝導体薄膜のMBE成長
	南塚 了	太陽表面の対流によって起こる非線形波動シミュレーション
	宮本 賢一	心拍数を一定に保つトレッドミルの速度制御法に関する基礎的研究
	山口 真悟	自然言語処理を用いた3DCG作成支援インターフェイスの研究
	山崎 剣治	注視による文字情報の獲得に関する研究
	吉田 篤	双方向スイッチを用いた力率改善形单相コンバータ回路に関する研究
	渡辺 健治	24時間明暗環境下および短時間低温環境下での老化促進モデルマウスの超音波発声に関する研究
	高 抱	单相整流回路の組み合わせによる高調波低減に関する研究
	孫 盾	D Cモータのセンサレス速度制御に関する研究
	TANTISATTAYAKUL THANAPOL	雷雲の位置推定のための水平方向電界計の開発
	張 圃	遺伝的アルゴリズムを用いた交通信号の制御
	劉 樹原	混合ガスにおけるガスセンサ応答のモデル化と濃度推定法に関する研究
	黎 煜晨	交流磁気誘導浮揚回転円盤装置に関する研究
機械システム工学専攻	朝倉 太郎	物質拡散の分子動力的機構に関する研究
	池田 薫	研削切断機の送り制御に関する基礎的研究

岩 脇 章 二	熱衝撃を受けた超合金のWC/CO界面における熱き裂発生
上 田 毅 文	アルミニウム合金の高速切削特性に関する研究
上 床 浩 一	熱間押し出し加工中の金型変形と圧力分布の測定
太 田 竜 真	水分を吸着させたゼオライト粒子充てん層の有効熱伝導率に関する研究
金 古 陽 一	少量の微粒子を含んだ水の凍結過程と粒子の挙動に関する研究
河 原 寛 之	油圧駆動四足歩行機械の動力学的モデリングに関する研究
川 部 泰 臣	セレーテッドフィン付管群の渦発生特性—管形状による渦発生特性とその抑制法—
北 川 明 宏	流速分布が片持ち円柱の流力弾性振動に及ぼす影響
佐 藤 壮 市	3次元分子動力学法による吸着過程に関する研究
佐 藤 寿	Mg-Al-Zn系合金切削チップの熱間押し出し性の改善とリサイクル
正 保 順	矩形中空押し出し材材の高精度化と非定常プロセスへのシミュレーションの適用
柴 田 幸 治	双輪駆動全方向移動ロボットの間欠走行制御
高 島 宏 行	YBa ₂ Cu ₃ O _{7-x} 粉末の焼結条件が高温圧縮加工性と超伝導特性に及ぼす影響
塚 田 茂 和	GAによる未知凹凸路面推測型移動マニピュレータの走行制御
塚 田 安 喜	加熱転がり接触を受ける被覆材の複数表面き裂干渉効果と疲労寿命の推定
出 村 和 也	μ-シンセシスを用いた衝撃加工機械のロバスト動作制御
西 口 浩 司	アルミニウム合金の穴あけにおけるドリル先端形状の効果に関する研究
播 摩 英 敏	Ti-6Al-4V合金の高温低サイクル疲労き裂発生・伝ば挙動に及ぼす負荷ひずみ波形の影響
前 川 浩 行	繊維状吸着材料の水分吸・脱着を利用した冷却システムに関する基礎研究
前 花 英 一	ニッケル基超合金の大気中疲労強度特性に関する二、三の検討
孫 田 多佳之	形彫放電加工の加工面損傷モニタリング装置の開発
増 淵 竜 治	放電被覆による押し出しダイスの表面改質とその性能評価
宮 武 浩 一	ニューラルネットワーク補償器による油圧サーボ機構の位置制御
宮 永 浩 司	超音波ウエーブレット解析による材料欠陥評価法の開発に関する研究
宮 前 信 彌	PICを用いたレーザー光のビームスポット検出装置の開発に関する研究
森 全 史	座面追従型立上がり介助座椅子の研究
山 崎 道 雄	フィン付伝熱管群の熱流動特性—フィンの種類と管列数の影響—
横 井 章 泰	移動マニピュレータの転倒防止に関する研究
若 嶋 真 博	焦点はずれ画像による形状測定法に関する研究

	渡 邊 隆 洋	低融点合金を用いた3次元薄板加工技術の開発
	遅 愛 娜	SNCM439鋼の超長寿命疲労強度特性に及ぼす表面処理の影響に関する研究
	南 震 宇	シルジウム系銅合金の被削性に関する研究
物 質 工 学 専 攻	飯 代 彰	多パス温間圧延によるアルミニウム合金のマイクロ組織変化
	伊 藤 和 彦	TiO ₂ 粉末を用いた光触媒還元反応によるSe(VI)およびSe(IV)を含む廃液からのSeOの回収
	今 尾 洋 一	Cu-C系強制固溶体粉末のパルス通電加圧焼結と焼結体の特性評価
	宇 佐 見 崇	ポロン置換によるYBa ₂ (Cu _{1-x} B _x) ₃ O _{7-y} 系の超伝導特性
	太 田 潤	液相法を用いたPZTの合成と薄膜作製
	奥 野 善 昭	炭材内装ペレットを使った急速還元製鉄法
	貝 沼 均	二つのスピロ環の接合によって安定化されたアズレニウムイオンの合成と性質
	加 藤 進	パルス通電加圧法による5056アルミニウム合金とSUS304ステンレス鋼の固相接合
	酒 井 智 幸	Al合金における析出物の構造解析に対するEFTEMの適用に関する研究
	瀬 口 賢 一	液体超急冷したMg-Al合金リボンのパルス通電加圧焼結
	善光寺 勇 夫	レーザー表面溶融法による過共晶Al-Si系合金の初晶Siの微細化および耐摩耗性の改善
	袖 澤 真 吾	新規液相法による酸化チタン薄膜の作製及び複層膜への応用
	高 田 祐 治	2色のレーザー光による2層系二重拡散対流の温度・濃度場同時計測に関する研究
	大 長 弘 明	Al-Ag合金の時効析出に関する研究
	土 肥 正 芳	過共晶Al-Si系合金の鑄造組織に対する機械攪拌の影響
	中 川 和 征	光触媒還元反応による亜酸化銅の作製
	成 田 容 久	Co-SiO ₂ 系におけるグラニューラー磁性薄膜の電氣的、磁氣的性質
	林 洋 彰	新製造法TiO ₂ 薄膜をコーティングしたアルミニウム合金における光触媒機能の発現
	日 原 樹 史	機械的攪拌によるAl-Cu系合金ビレットの製造と組織評価
	藤 井 良	溶接構造用アルミニウム合金の時効析出に関する研究
	藤 本 正 人	2成分溶液を含む砂層の乾燥機構解析と数値シミュレーション
	古 川 晴 彦	Pr-O系酸化物の高温における熱分析
	古 田 慎 二	トリシクロ[6.4.1.0 ³ , ⁶]トリデカ-1,3(6),7,9,11-ペンタエンの合成とその性質に関する研究
堀 泰 宏	低レイノルズ数型1方程式乱流モデルによる半円柱乱流促進体周りの流動解析	
本 田 政 樹	二重拡散対流における界面近傍の数値的流動解析	
松 下 稔	Y _{1-x} CaxBa ₂ Cu ₃ O _{7-y} 系の超伝導臨界電流密度の研究	

	水 林 舞	温度傾斜PCPS法によるAl/A12O3系傾斜機能材料の作製と評価
	名 徳 康 晴	Al-Mg-Si合金の粒界破壊挙動に対するCu添加の影響
	森 田 吉 成	アルミを含む廃液からのアルミナ回収処理プロセスの開発
	山 下 理	異形粒子群の分離操作に関する研究
化学生物工学専攻	石 野 友季子	Molecular Recognition of Glyco-conjugated Amphiphiles by Proteins
	井 上 真 計	流動化酸化チタン粒子を用いる液相光触媒分解
	岡 崎 友吏子	Staphylococcus warneri M が産生するバクテリオシンに関する研究
	岡 野 貴 弘	Bacillus cereus を生体触媒とした有機変換反応における基質溶剤の影響に関する研究
	岡 村 誠	石炭の無触媒水素化分解に及ぼす水の添加効果
	木 村 定 明	ホルムアルデヒド資化細菌によるバイオレメディエーション
	上 坂 多恵子	トリフェニル- λ^6 -サルファンニトリルとスルフェニル化剤及びスルフィニル化剤との反応によるナイトレン種の発生
	幸 本 和 明	タンパク質ハイブリッドを利用した新規バイオプロセスの開発
	古 田 島大悟	アミノピリジル配位子固定化ポリスチレンによるAu(III)の選択的分離
	後 藤 充 美	高電圧パルスによる分裂酵母細胞内からの選択的蛋白質の放出
	齋 藤 利 貴	Preparation of Electro-Biosensing Device Using a Self-Assembled Monolayer
	坂 爪 大 輔	制ガン性白金錯体シスプラチンとDNAの相互作用に関するコンピュータによる解析
	坂 手 利 栄	ファージphi g1eのリプレッサー蛋白質の構造と機能
	佐 藤 恵 美	ポリチオアミドを用いた含重金属有機溶液からの金属回収
	佐 藤 高 志	イミノスルホニウムイリドとフルオロ- λ^6 -サルファンニトリルとの反応に関する研究
	住 祐 輔	Preparation and Characterization of Novel Lipopolypeptides with Many Pendent Sugar Residues
	平 佳 子	Molecular Recognition of Endocrine Disrupters by Self-Assembled Monolayer of Cyclodextrin
	田 中 和 彰	硫化モリブデン分散触媒を用いた石炭の水素化分解に及ぼす水の添加効果
	土 肥 千 尋	電界で形成したpH傾斜プレートに対するブドウ酵母の特性
	中 島 敏 文	Studies on the Syntheses, Structures and Reactions of Several "Cyclized" Thianthrene Derivatives
	中 谷 博 史	新静止型混合器による低粘度液体の乳化特性
	福 士 夕紀子	非侵襲血糖測定器を用いた糖尿病支援システムの開発
藤 森 照 徳	サルファーイミノ- λ^6 -サルファンニトリル類及びその誘導体の合成と構造に関する研究	
水 落 正 慶	Studies on the Syntheses and the Reactions of the β -Hydroxy Heteroaromatic Sulfur Derivatives	
望 月 滋	荷電表面近傍における高分子電解質の濃度分布	

	杠 麻 美	白色腐朽菌の不織布表面培養法を用いた環境汚染物質含有廃水の浄化
	MOHD.NAZIR BINISHAK	酸化チタンを用いる気相光触媒分解に及ぼす触媒担体の影響

【理工学研究科（博士後期課程）】

専 攻	氏 名	論 文 題 目
システム科学	閻 理 坦	Hermite Polynomials and Martingales
	徐 天 晟	A Child Verb Learning Model Based on Syntactic Bootstrapping
物質科学	赤 丸 悟 士	磁気モーメントが収縮したCe化合物の磁性と電子構造
	斎 藤 益 満	T細胞受容体遺伝子座異常と候補T細胞白血病原因遺伝子の単離
	RAHMAN MOHAMMAD MIZANUR	MBE Growth of Si _{0.75} Ge _{0.25} Alloy Layers on Si(001) Substrate Using (Si _m /Ge _n)N Superlattice Buffers
	邹 勇	Structural Evolution During Mechanical Alloying in Al-Fe Binary and Al-Fe-TM(TM=Cr,Ni,Cu,Zr)Ternary Systems
エネルギー科学	大 滝 雄 一 郎	波長可変遠赤外分光計を用いた分子・イオンの分光
	佐々木 みぎわ	Major geologic structures associated with the Early Cretaceous sinistral shearing along the eastern margin of Asia
	高 尾 和 人	プラズマフォーカス装置における粒子ビーム発生特性に関する研究
	王 利	Study of structure and spectrum for a molecule with an internal rotor
生命環境科学	岩 月 輝 希	Isotopic study of hydrogeochemical condition of deep underground - Analysis of long-term change of geochemical condition at Tono uranium deposits area, Japan -
	丸 山 励 治	バクテリア Bacillus cereus による多環芳香族化合物の変換に関する研究
	宋 存 江	Study on Biosynthesis and Biodegradation of Polyhydroxyalkanoate (PHA)
	孫 恵 峰	陽イオン界面活性剤のイオン対膜分離/吸光光度定量法と水環境における動態に関する研究

【理工学研究科（博士論文提出による博士の学位授与者）】

氏 名	論 文 題 目	授与年月日
宮 嶋 俊 明	粉粒体挙動に及ぼす粒子形状の影響に関する基礎的研究	平成14年3月18日
藤 井 純 子	The geomagnetic field's configuration over the Japanese Islands at the time when the Aso-4 tephra was deposited	平成14年3月18日

【理工学研究科（博士後期課程）】

専 攻	氏 名	論 文 題 目
システム科学	稲 垣 稔 之	アルミニウム合金中空押し出し型材の高精度・低圧力押し出しを目的としたホローダイス設計に関する基礎的研究
生命環境科学	横 井 健 二	水産加工食品由来のグラム陽性細菌に関する研究

平成13年3月31日付け

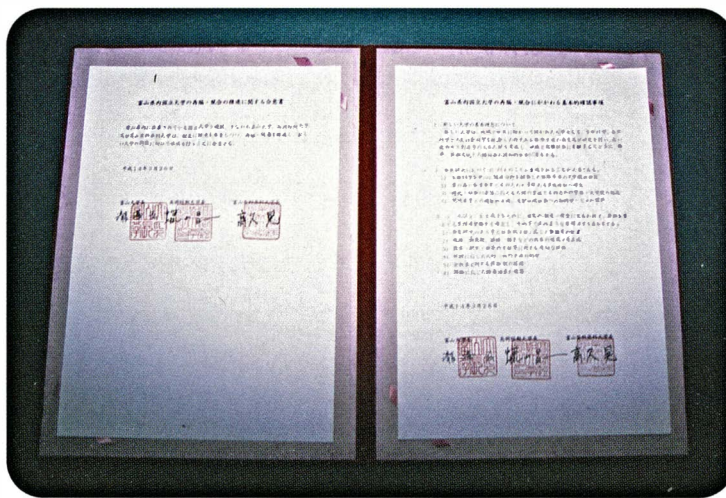
【工学研究科（博士後期課程）】

専 攻	氏 名	論 文 題 目
システム生産工学	原 恭	ロータリコンプレッサ用ベーン材料への適用を目的としたTiCN系サーメット合金の開発に関する基礎的研究

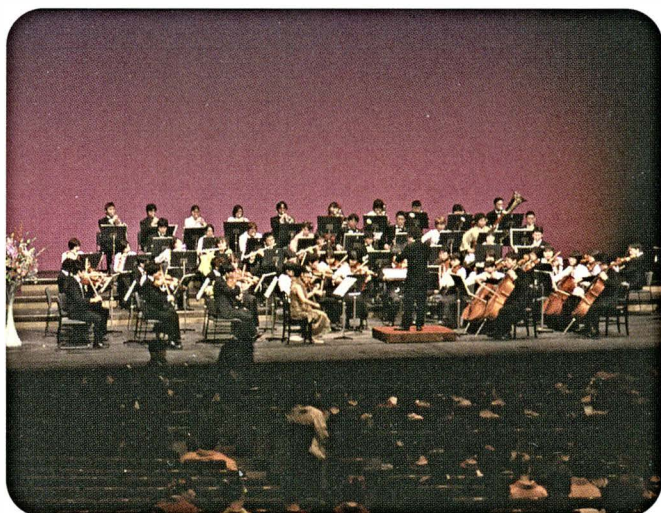
平成13年3月31日付け



△ 入学者選抜学力検査合格発表風景（3月7日）



△ 富山県内国立大学の再編・統合の推進に関する合意書



△ 学位記授与式で演奏する富山大学フィルハーモニー管弦楽団



△ 学位記授与式で合唱する富山大学合唱団

編 集 富山大学総務部企画室 〒930-8555富山市五福3190 TEL.(076) 445-6029 FAX.(076) 445-6033
 印刷所 あげぼの企画(株) 〒930-0031富山市住吉町1-5-8 TEL.(076) 424-1755 FAX.(076) 423-8899